Pioneer sound.vision.soul

取扱説明書

お取り扱いについてお困りのとき

http://pioneer.jp/support/product/blu.html

カスタマーサポートセンター



0070-800-8181-22

一般電話 03-5496-2986

受付時間
月曜～金曜
9:30～18:00
土曜・日曜・祝日
9:30～12:00、13:00～17:00
(弊社休業日を除きます。)

※フリーフォンおよびフリーダイヤルは、携帯電話･PHSからはご利用になれません。一般電話は、携帯電話･PHSからご利用可能ですが、通話料がかかります。













ブルーレイディスクプレーヤー

BDP-LX80

もくじ

このたびは、パイオニア製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」は、「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

準備

接続

基本設定

再生

画質 / 音質調整

詳細設定 / 困ったとき / その他

安全上のご注意

ご使用前に「安全上のご注意」を必ず読み、正しく安全にお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容が描かれています。



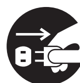
⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告

異常時の処置



・万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



・万一、内部に水や異物等が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



・万一、本機を落としたり、カバーを破損した場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置



・付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。
また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。



・電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷きになったりしないようにしてください。コードの上を敷物などで覆うと、気づかずに重いものを載せてしまうことがあります。重いものを載せるとコードが傷ついて、火災・感電の原因となります。

使用環境



・本機の内部に水が入ったり、濡れないようご注意ください。火災･感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



・風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



・表示された電源電圧（交流100ボルト、50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。



・本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法



・本機の上に花びん、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災·感電の原因となります。



・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



・本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。



・雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



・電源プラグの刃および刃の付近にホコリや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



・電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。



・本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は、販売店にご依頼ください。

設置



・電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全だと発熱したりホコリが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。



・電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。



・電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



・電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



・移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。



・ぐらついた台や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



・本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは２人以上で行ってください。



・窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。



・本機を調理台や加湿器の近くなど油煙やホコリの多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



・テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。



・本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。



・本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。（取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。）



・放熱を良くするため他の機器、壁などから間隔をとり、またラックに入れるときはすき間をあけてください。また、次のような使いかたをしないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
◆ 押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
◆ じゅうたんやふとんの上に置く。
◆ テーブルクロスなどをかける。
◆ 横倒しにする。
◆ 逆さまにする。



・本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

⚠注意

使用方法



・ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。



・レーザーを使用している機器では、レーザー光源をのぞきこまないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。



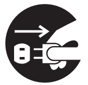
・長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



・本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因となることがあります。



・お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。



・旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池のお取り扱い



・指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災やけが、あるいは周囲を汚す原因となることがあります。



・電池をリモコン内にセットする場合、極性表示（＋極と－極）に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災やけが、あるいは周囲を汚す原因となることがあります。

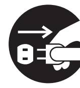


・電池は加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災やけがの原因となることがあります。



・長時間使用しないときは、リモコンから電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災やけが、あるいは周囲を汚す原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

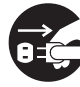
保守・点検



・お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
感電の原因となることがあります。

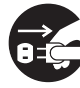


・5 年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にホコリがたまったまま、長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。



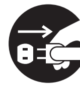
・電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。





・機器本体の ⏻ STANDBY/ON ボタンで電源を切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。





・本体表示窓、および ⏻ STANDBY/ON インジケーターが消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



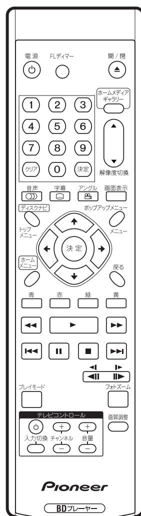


本機の放熱について

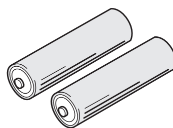
• 本機を設置する場合には、壁から 10 cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から 10 cm 以上、背面から 10 cm 以上、側面から 10 cm 以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

付属品を確認する

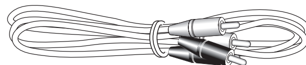
リモコン× 1



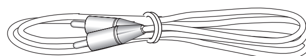
単 3 形乾電池 × 2



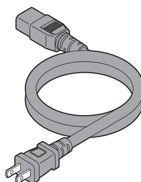
オーディオケーブル (白 / 赤) ×1



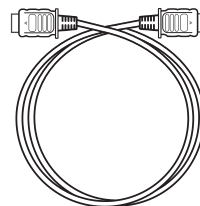
ビデオケーブル (黄) ×1



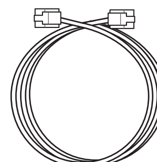
電源コード×1



HDMI ケーブル× 1



LAN ケーブル× 1



保証書
取扱説明書 (本書)

注 意

この製品はJIS C 6802規格の基で評価されたクラス1レーザ製品ですが、内部にはクラス1のレベルを超える危険なレーザ放射があります。
分解や改造などは絶対に行わないでください。

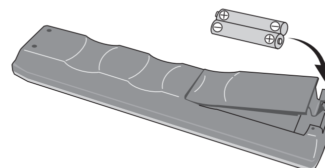
クラス1
レーザ製品

危険なレーザ放射に接する恐れのある部分には、以下の注意文表示があります。

CAUTION CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN, AVOID EXPOSURE TO THE BEAM.
ATTENTION RADIATIONS LASER VISIBLES ET INVISIBLES DE CLASSE 3B QUAND OUVERT. ÉVITEZ TOUT EXPOSITION AU FAISCEAU.
ADVARSEL KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING.
VARNING KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. UNDVIK ATT UTSÄTTA DIG FÖR STRÅLEN.
VORSICHT BEI GEÖFFNETER ABDECKUNG IST SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG DER KLASSE 3B IM GERÄTEINNEREN VORHANDEN. NICHT DEM LASERSTRAHL AUSSETZEN!
PRECAUCIÓN CUANDO SE ABRE HAY RADIACIÓN LÁSER DE CLASE 3B VISIBLE E INVISIBLE. EVITE LA EXPOSICIÓN A LOS RAYOS LÁSER.
VARO! AVATTAESSA OLET ALTTIINA NÄKYVÄLLE JA NÄKYMÄTTÖMÄLLE LUOKAN 3B LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.
注意 ここを開くと CLASS 3B の可視レーザ光及び不可視レーザ光が出ます。ビームを直接見たり、触れたりしないこと。
DRW2282 - A

D3-7-12-5-5_Ja

リモコンに電池を入れる



ご注意

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間 (1 カ月以上) リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示 (条例) に従って処理してください。
- 電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因になります。また、電池の性能や寿命が低下することがあります。

再生できるディスク / ファイル（動画 / 画像 / 音楽）の種類

再生できるディスク

下記のマークと「NTSC」がディスクレーベル、パッケージ、またはジャケットに表記されているディスクを再生できます (本機は NTSC(日本のテレビ方式) に適合しています)。

ブルーレイディスク(BD/BD-ROM)



DVDビデオ　DVD-R　DVD-R DL　DVD-RW









CD



◆ Blu-ray Disc および Blu-ray Disc は商標です。
◆ DVD はDVDフォーマットロゴライセンシング(株)の商標です。

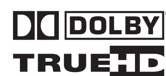
お知らせ

- 上記のマークが付いていても、再生できないディスクがあります。
- 8 cm ディスクを再生するときは、ディスクテーブルの 8 cm ディスク専用の枠にセットしてください。アダプターは不要です。

BD の再生について

- BD-ROM を再生できます。
- BD-ROM Profile1 に対応しています。
- BD-R を再生できます。
- Blu-ray Recordable フォーマットバージョン2(BDMV フォーマットのデータが記録されている規格) に対応しています。
- Blu-ray Recordable フォーマットバージョン1(BDAV フォーマットのデータが記録されている規格) には対応していません。
- BD-RE を再生できます。
- Blu-ray Rewritable フォーマットバージョン3(BDMV フォーマットのデータが記録されている規格) に対応しています。
- Blu-ray Rewritable フォーマットバージョン 1(カートリッジが付属されている規格)、およびバージョン2(BDAV フォーマットのデータが記録されている規格) には対応していません。
- 12 cm ディスクを再生できます。8 cm ディスクは再生できません。
- 本機はドルビー TrueHD、ドルビーデジタル Plus、DTS-HD High Resolution Audio、ドルビーデジタル、および DTS に対応しています。
  ドルビー TrueHD、ドルビーデジタル Plus、または DTS-HD High Resolution Audio を最大のパフォーマンスで楽しむには、本機とドルビー TrueHD、ドルビーデジタル Plus、または DTS-HD High Resolution Audio に対応している AV アンプを HDMI ケーブルを使って接続してください。また、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタル Plus、または DTS-HD High Resolution Audio が収録されているブルーレイディスクをセットしたあとにディスクメニューでドルビー TrueHD、ドルビーデジタル Plus、または DTS-HD High Resolution Audio を選んでください。
  各音声の出力条件については「音声出力端子から出力される音声について」をご覧ください。☛ **50 ページ**





◆ ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



◆ “DTS”および“DTS Digital Surround”は、DTS 社の登録商標です。

DVD の再生について

- DVD-ROM/-R/-RW を再生できます。
- ファイナライズされていない DVD-R/-RW、およびビデオレコーディングフォーマット (VR モード) で記録されている DVD-R/-RW は再生できません。
- 動画 / 画像 / 音楽ファイルの記録されている DVD-R/-RW を再生できます。再生できる動画 / 画像 / 音楽ファイルについては「再生できるファイル」をご覧ください。☛ **8 ページ**
- DVD-Audio、および DVD-RAM は再生できません。

リージョンナンバー (地域番号) について

BD/DVD プレーヤーと BD/DVD ディスクには、販売地域ごとにリージョンナンバーが設定されています。本機に設定されたリージョンナンバーが、再生するディスクのリージョンナンバーに含まれていないときは再生できません。本機 (日本向け) で再生できるリージョンナンバーは下記のとおりです。

- BD：**A(A を含む)、ALL**
- DVD：**2(2 を含む)、ALL**

CD の再生について

- CD-DA(音楽 CD) を再生できます。
- CD-R/-RW の再生は保証できません。
- CD に記録されている動画 / 画像 / 音楽ファイルは再生できません。
- マルチセッションには対応していません。
- コピーコントロール CD について
  この製品は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。CD 規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。
- 本機のデジタル音声出力端子から出力される CD の音声にはコピー禁止信号が含まれているため、接続した録音機器にダビングできません。

DualDisc の再生について

- 「DualDisc」は、片面に、DVD 規格準拠の映像やオーディオが、もう片面に CD 再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷がついた面は再生すると不具合がでる場合があります。
- DVD 面ではない、オーディオ面は、一般的な CD の物理的規格に準拠していないために、再生できないことがあります。
- 「DualDisc」の DVD の面は再生可能です。
- なお、「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

パソコンで作成したディスクの再生について

- レコーダー、またはパソコンで記録した DVD-R/-RW、CD-R/-RW を再生できないことがあります (原因：ディスクの特性、傷、汚れ、プレーヤーのレンズの汚れ、または結露など)。また、CD-ROM は再生できません。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定、および環境によっては再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください (詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください)。

再生できるファイル

DVD-R/-RW に記録されているファイル、およびネットワーク上の機器に保存されている動画 / 画像 / 音楽ファイルを再生できます。

ご注意

- 接続している機器によってファイルを再生できないことがあります。
- ファイルによっては再生できないことがあります。
- ファイルによっては再生中にできない機能があります。
- 本機で再生できるファイルの拡張子が付いていても再生できないことがあります。
- DRM/WMDRM で保護されているファイルは再生できません (ただし、ネットワーク上の機器の WMDRM で保護されているファイルは再生できます)。

動画ファイルの対応フォーマット

■ Windows Media™ Video 9 (WMV9)
- MP@HL
- WMV9 の Complex Profile には対応していません。

■ Windows Media Video 9 (WMV9) Advanced Profile(VC-1)
AP@L3

■ MPEG-2 (PS/TS)
MP @ HL

■ MPEG-1

画像ファイルの対応フォーマット

■ JPEG
- ファイルフォーマット：JFIF/Exif
- 解像度：4096 x 4096 ピクセルまで

ベースライン JPEG/ プログレッシブ JPEG に対応しています。

■ PNG
解像度：4096 x 4096 ピクセルまで

■ GIF
解像度：4096 x 4096 ピクセルまで

音楽ファイルの対応フォーマット

■ Windows Media Audio 9 (WMA9)
ビットレート：
- 192 kbps まで (固定ビットレート (CBR))
- 384 kbps まで (可変ビットレート (VBR))

サンプリング周波数：44.1 kHz、48 kHz

■ Windows Media Audio 9 Professional(WMA9 Pro)
ビットレート：768 kbps
サンプリング周波数：44.1 kHz、48 kHz
チャンネル数：5.1ch まで

■ MPEG-1 オーディオレイヤー 3 (MP3)
ビットレート：320 kbps まで
サンプリング周波数：32 kHz、44.1 kHz、48 kHz

■ リニア PCM（WAV）
サンプリング周波数：44.1 kHz、48 kHz

再生できるファイルの拡張子

■ 動画ファイル
- .wmv
- .mpg
- .mpeg

■ 画像ファイル
- .jpg
- .jpeg
- .png
- .gif

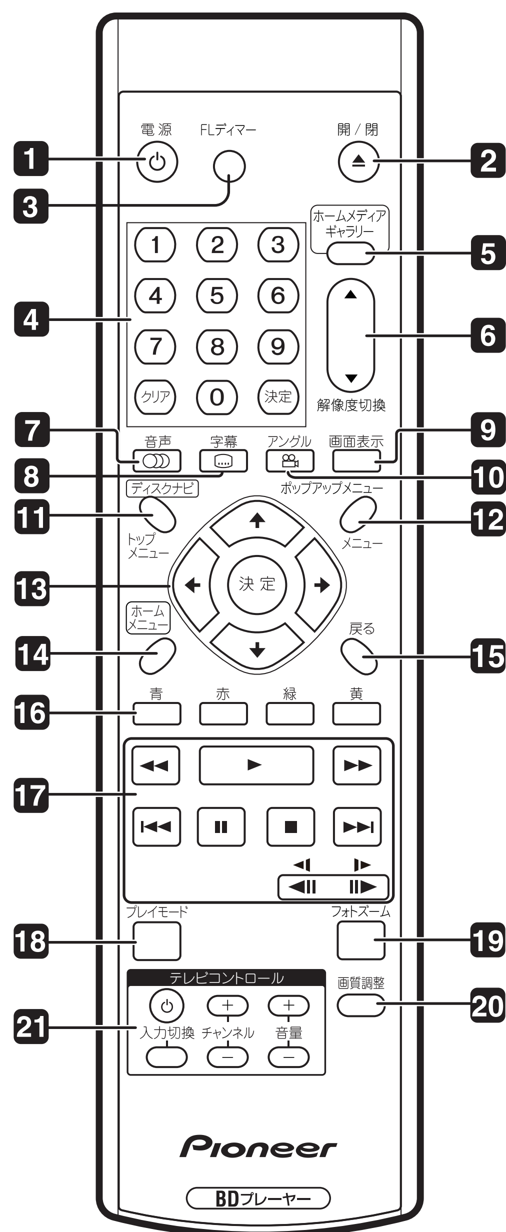
■ 音楽ファイル
- .wma
- .mp3
- .wav

◆ Windows Media™ は、米国 Microsoft Corporation の商標です。

本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずに使用または頒布できません。

各部の名前とはたらき

リモコン



1 ⏻ 電源
電源をオン / オフにします。

2 ⏏ 開 / 閉
ディスクテーブルを開 / 閉します。

3 FL ディマー
本体表示窓の明るさを調節します。消灯を選ぶと FL OFF インジケーターが点灯します。

4 数字ボタン
見たい / 聞きたいタイトル / チャプター / トラックを指定して再生するとき、またはメニュー画面で項目を選ぶときなどに使います。

クリア
選んだ項目を取り消す、または番号の入力を間違えたときなどに使います。

決定
選んだ項目を実行する、または変更した設定を確定するときなどに使います。

5 ホームメディアギャラリー **☛ 33 ページ**
ホームメディアギャラリーを表示 / 終了します。

6 解像度切換 **☛ 21 ページ**
HDMI 出力端子、またはコンポーネント映像出力端子から出力される映像の解像度を切り換えます。

7 音声 **☛ 24 ページ**
BD/DVD の音声言語を切り換えます。

8 字幕 **☛ 24 ページ**
BD/DVD の字幕言語を切り換えます。

9 画面表示 **☛ 24 ページ**
ディスクの情報を表示します。

10 アングル **☛ 23 ページ**
BD/DVD のアングルを切り換えます。

11 ディスクナビ / トップメニュー **☛ 27 ページ**
ディスクナビ、または BD/DVD の最上層のメニュー画面を表示します。

12 ポップアップメニュー / メニュー
BD/DVD のメニュー画面を表示します。

13 ⬆/⬇/⬅/➡
項目を選ぶ、または設定を変更するときなどに使います。
また、カーソルを移動します。

決定
選んだ項目を実行する、または変更した設定を確定するときなどに使います。

14 ホームメニュー
ホームメニューを表示 / 終了します。

15 戻る
一つ前の画面に戻ります。

16 青 / 赤 / 緑 / 黄
BD のメニュー画面を操作するときに使います。

17 ◀◀ ▶▶ **☛ 22 ページ**
早送り / 早戻しします。


再生を開始します。


再生を一時停止します。再度押すと再開します。


再生を停止します。

|◀◀ ▶▶| **☛ 23 ページ**
頭出しします。

◀II II▶/ ◀I I▶ **☛ 23 ページ**
再生中に押すとスロー再生を開始します。一時停止中に押すとコマ送り再生を開始します。

18 プレイモード **☛ 25 ページ**
プレイモード画面を表示 / 終了します。

19 フォトズーム **☛ 24 ページ**
画像ファイルを拡大します。

20 画質調整 **☛ 41 ページ**
画質調整画面を表示 / 終了します。

21 テレビコントロール **☛ 20 ページ**
お使いのテレビを本機のリモコンで操作できます。

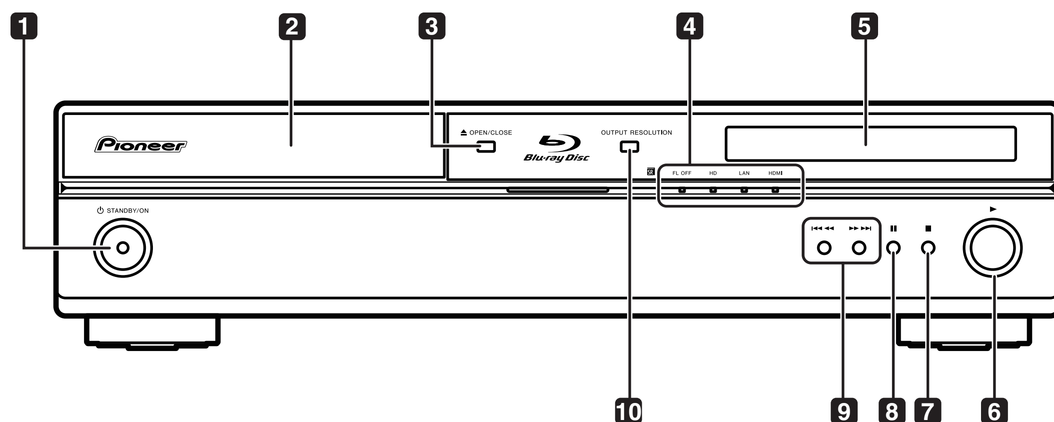

テレビの電源をオン / オフにします。

入力切換
テレビの入力を切り換えます。

チャンネル (＋ / －)
テレビのチャンネルを切り換えます。

音量 (＋ / －)
テレビの音量を調節します。

本体前面部



1 ⏻ STANDBY/ON
電源をオン / オフにします。電源をオンにすると、インジケーターが点灯します。また、本体前面部中央のインジケーターも点灯します。

2 ディスクテーブル

3 ⏏ OPEN/CLOSE
ディスクテーブルを開閉します。

4 FL OFF
本体表示窓、または他のインジケーターが消灯しているときに点灯します。

HD
HDMI ケーブルを使って接続して、解像度を 720p、1080i、または 1080p に設定しているときに点灯します。また、コンポーネントビデオケーブルを使って接続して、解像度を 720p、または 1080i に設定しているときも点灯します。

LAN
LAN ケーブルを使って接続している機器とネットワーク上に認識しているときに点灯します。

HDMI ☛ 14 ページ
HDMI ケーブルを使って接続している HDMI 対応機器へ映像 / 音声信号を伝送しているときに点灯します。

5 本体表示窓

6 ▶
再生を開始します。

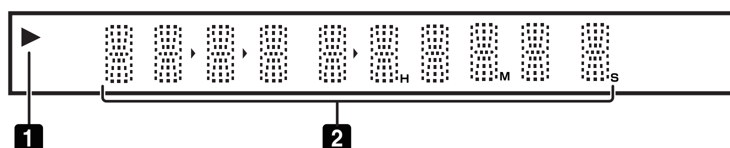
7 ■
再生を停止します。

8 ❚❚
再生を一時停止します。再度押すと再開します。

9 ⏮ ◀◀ ☛ 22, 23 ページ
頭出しします。押し続けると早戻しします。
▶▶ ⏭ ☛ 22, 23 ページ
頭出しします。押し続けると早送りします。

10 OUTPUT RESOLUTION ☛ 21 ページ
HDMI 出力端子、またはコンポーネント映像出力端子から出力される映像の解像度を切り換えます。

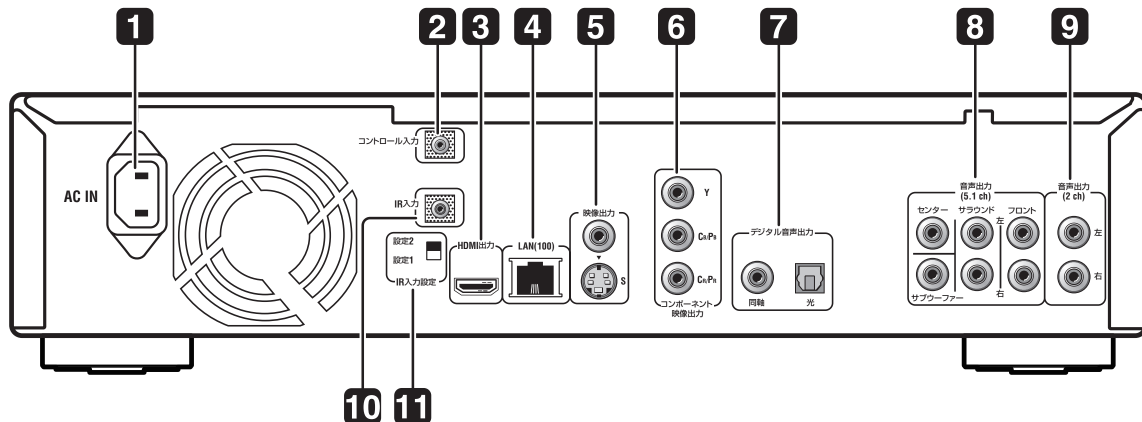
本体表示窓



1 ▶
ディスクを再生しているときに点灯します。

2 カウンター表示
タイトル / チャプター / トラック番号や経過時間などを表示します。

本体背面部



1　AC IN
電源コードを接続します。

2　コントロール入力端子
SR マーク付きのパイオニア製 AV アンプなどのコントロール出力端子と市販のミニプラグ付きケーブル (抵抗なし、3.5 φ) を使って接続すると、AV アンプなどのリモコンで本機を操作できます。詳しくは AV アンプなどの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- システムコントロール接続するときは、市販のミニプラグ付きケーブル以外にデジタル (同軸) ケーブル、アナログ音声ケーブル、または映像ケーブルのいずれかを必ず接続してください。
- システムコントロール接続したときは、接続した機器 (AV アンプなど) にリモコンを向けて操作してください。本機にリモコンを向けて操作することはできません。
- コントロール端子のない機器やパイオニア以外の製品とシステムコントロール接続することはできません。

3　HDMI 出力端子
HDMI 対応テレビまたは AV アンプなどと接続します。

4　LAN(100)
ハブやパソコンなどの LAN 端子 (100BASE-TX) と接続します。

5　映像出力端子 /S 映像出力端子
テレビ、または AV アンプなどの映像入力 /S 映像入力端子と接続します。

6　コンポーネント映像出力端子
テレビ、または AV アンプなどのコンポーネント映像入力端子と接続します。

7　デジタル音声出力 (同軸 / 光)
AV アンプなどのデジタル音声入力端子と接続します。

8　音声出力 (5.1 ch) 端子
AV アンプなどのマルチチャンネル (5.1ch) 音声入力端子と接続します。

9　音声出力 (2 ch) 端子
テレビ、または AV アンプなどの音声入力端子と接続します。

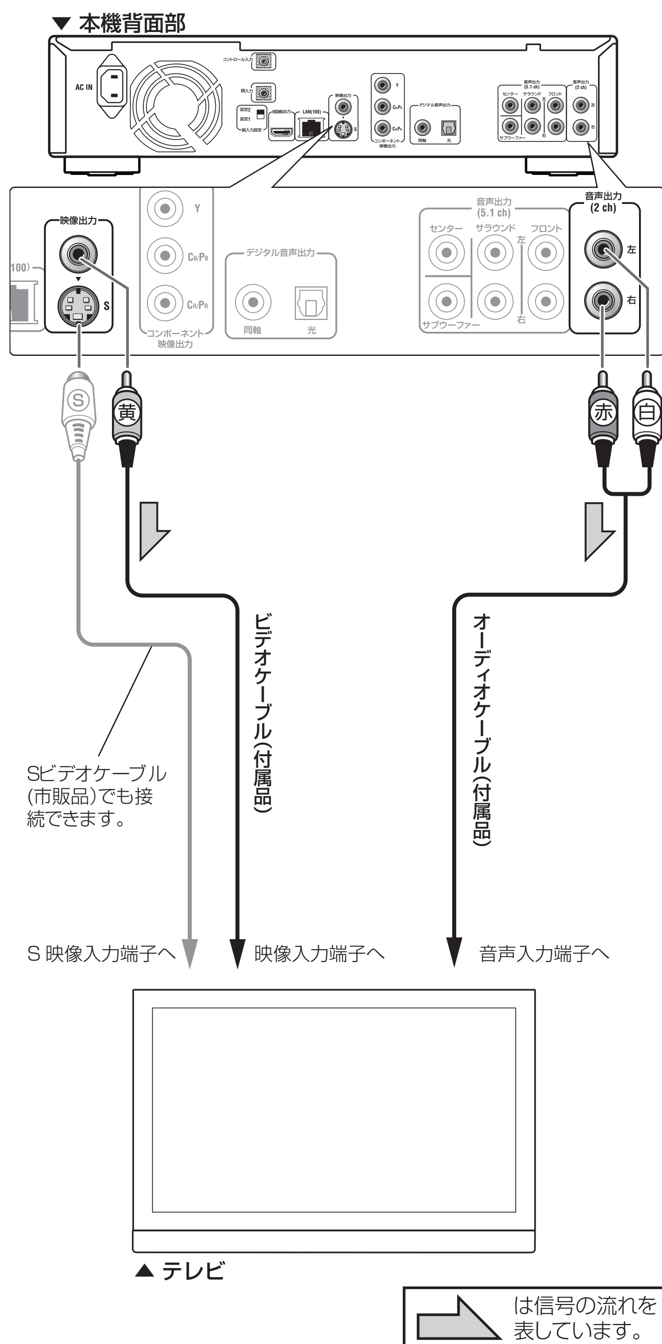
10　IR 入力端子

11　IR 入力設定 (設定 1/ 設定 2)

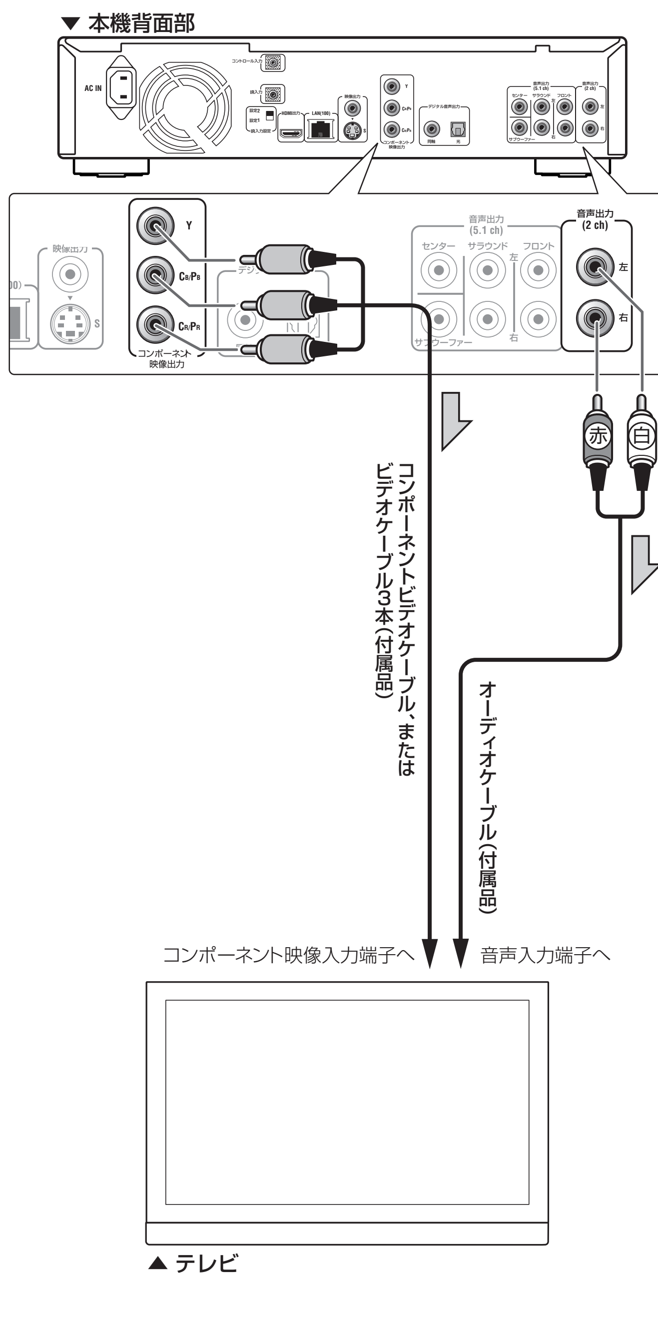
テレビと接続する

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

付属のオーディオケーブルとビデオケーブルを使って接続する



市販のコンポーネントビデオケーブルを使って接続する



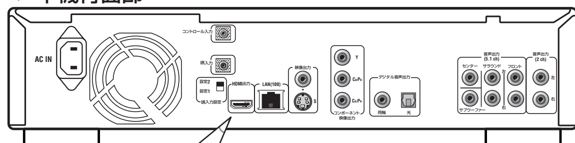
ご注意

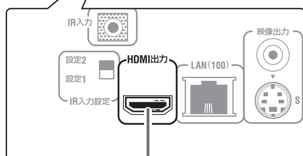
- **本機の映像出力は、直接テレビに接続してください。**
  本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しているため、DVD レコーダー / ビデオデッキを通してテレビと接続したり、DVD レコーダー / ビデオデッキで録画して再生すると、正常に再生できないことがあります。また、本機をビデオ内蔵テレビに接続すると、コピーガードによって正常な再生ができないことがあります。詳しくはお使いのテレビメーカーにお問い合わせください。
- テレビに D 端子しかないときは、市販のコンポーネント－D 変換ケーブルを使って接続します。
- ビデオケーブル (付属品) で接続したときはハイビジョン画質が出力されません。

HDMI ケーブルを使って接続する

1 本のケーブルで映像と音声を劣化のないデジタル信号で HDMI 対応テレビに伝送できます。接続後、HDMI 対応テレビに合わせて本機の解像度と HDMI カラーを設定してください。HDMI 対応テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

▼ 本機背面部

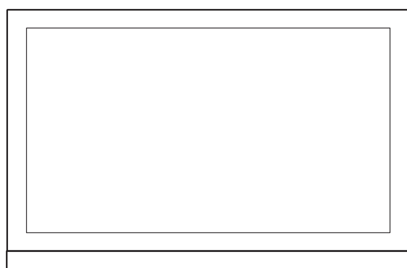






HDMIケーブル(付属品)

HDMI入力端子へ



▲ HDMI対応テレビなど



HDMI について

● 本機は HDMI 機器との接続を目的として設計されています。DVI 機器に接続したとき、DVI 機器によっては正常に動作しないことがあります。

● 本機のインターフェースは下記の規格に基づいて設計されています。
High-Definition Multimedia Interface Specification



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は HDMI Licensing LLC の商標文または商標登録です。

本機の HDMI 出力端子から伝送できる音声

● 44.1 kHz ～ 192 kHz、16 bit/20 bit/24 bit の8チャンネルリニア PCM 音声（サンプリング周波数によって制限事項があります。詳しくは ☛ **50 ページ**をご覧ください。）

● ドルビー TrueHD 7.1 チャンネル音声

● ドルビーデジタル Plus 7.1 チャンネル音声

● DTS-HD High Resolution Audio 7.1 チャンネル音声

● ドルビーデジタル 5.1 チャンネル音声

● DTS 5.1 チャンネル音声

お知らせ

- お使いの HDMI ケーブルによっては 1080p 映像が出力されないことがあります (付属の HDMI ケーブルは 1080p に対応しています)。
- HDMI 出力端子に接続していたテレビを変更したときは、**解像度切換ボタン**で解像度も変更してください。☛ **21 ページ**
- **HDCP に対応していない DVI 機器 (パソコンのディスプレイなど) には接続できません。**

HDCP とは

● HDCP(High-bandwidth Digital Content Protection) とは、デジタル画像信号を暗号化する著作権保護システムのひとつです。

HDCP 対応の DVI 機器と接続したとき

● 本体前面部の HDMI インジケーターが点灯します (接続した機器によっては、機器の入力で本機を選んだときのみ点灯します)。

● 音声が出力されません。オーディオケーブル (付属品) などで接続してください。☛ **13 ページ**

HDMI コントロール機能について

- HDMI コントロール機能に対応しているパイオニア製のプラズマテレビなどと本機を HDMI ケーブルで接続すると、プラズマテレビなどで本機を操作できます。
- 本機の再生を始める、またはホームメニューやディスクナビなどを表示すると、プラズマテレビなどの入力が自動で切り換わります。入力が切り換わると再生画面、またはホームメニューやディスクナビがプラズマテレビに表示されます (オートセレクト機能)。このとき、オフだったプラズマテレビの電源が自動でオンになることがあります。
- プラズマテレビなどの取扱説明書もあわせてご覧ください。

HDMI コントロール機能を使うには

- HDMI コントロール機能は、HDMI ケーブルで接続されているすべての機器の [HDMI コントロール] を [オン] に設定しているときに働きます。
- 接続、および各機器の設定が完了したら、本機の映像がプラズマテレビに出力されているか確認してください (接続する機器を変更したり、HDMI ケーブルを差し直したときも確認してください)。
- 付属の HDMI ケーブル以外をお使いのときは、HDMI1.3(カテゴリー 2) 規格以降に対応しているケーブルをお使いください。

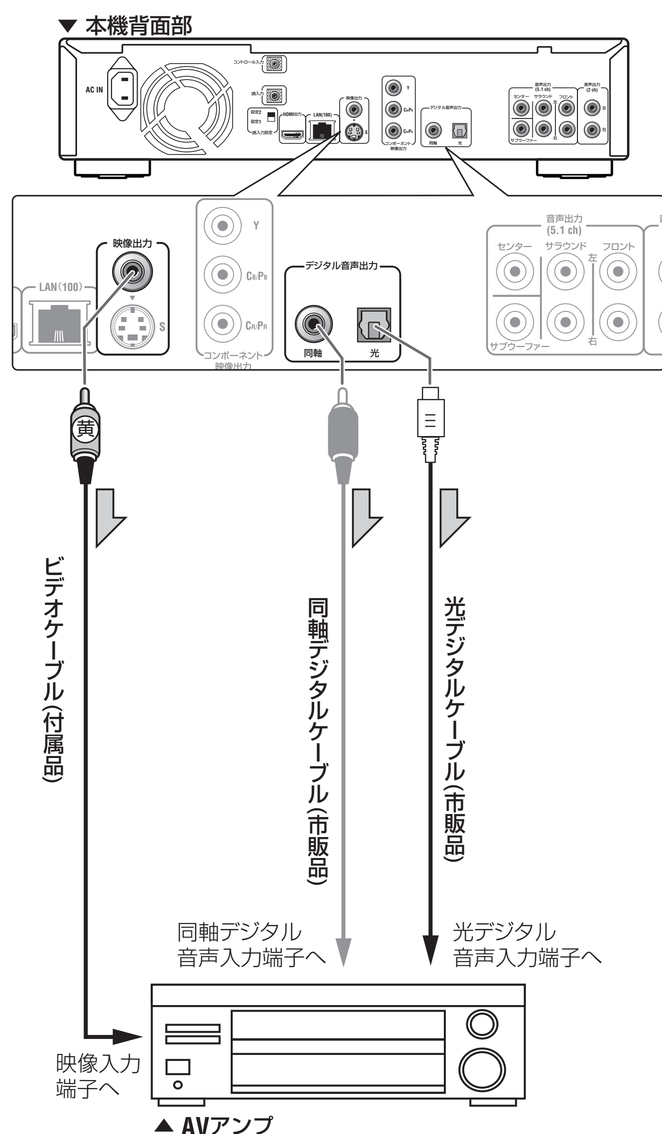
  (HDMI1.3(カテゴリー 2) 規格以降に対応していないと HDMI コントロール機能が正しく動作しないことがあります。)

サラウンドサウンドを楽しむ

デジタル音声出力端子、または音声出力(5.1 ch)端子にデジタル入力(ドルビー TrueHD、ドルビーデジタル Plus、ドルビーデジタル、DTS-HD High Resolution Audio、または DTS など)に対応している AV アンプなどと接続します。AV アンプとテレビ、および AV アンプとスピーカーの接続については、AV アンプの取扱説明書をご覧ください。

市販のデジタル音声ケーブルを使って接続する

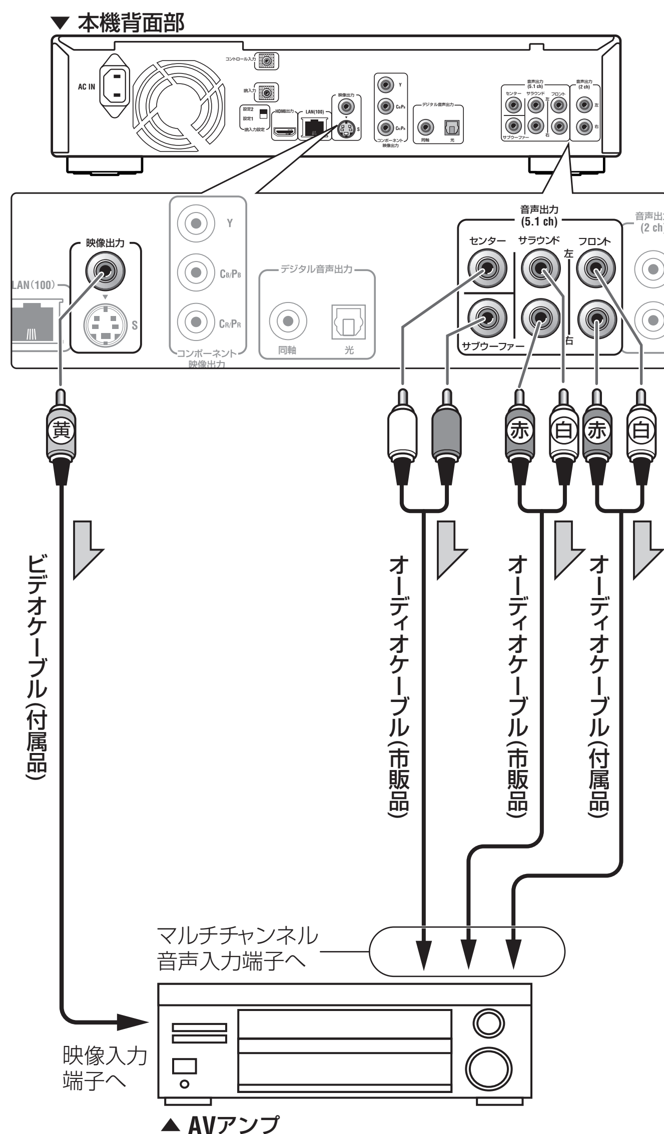
光デジタル音声ケーブル、または同軸デジタル音声ケーブルのいずれかを接続します。



アナログ音声ケーブルを使って接続する

付属のオーディオケーブル 1 本と市販のオーディオケーブル 2 本を使って接続します。接続後、[音声出力モード] を [5.1 チャンネル] に設定してください。

☛ 45 ページ



ネットワークに接続する

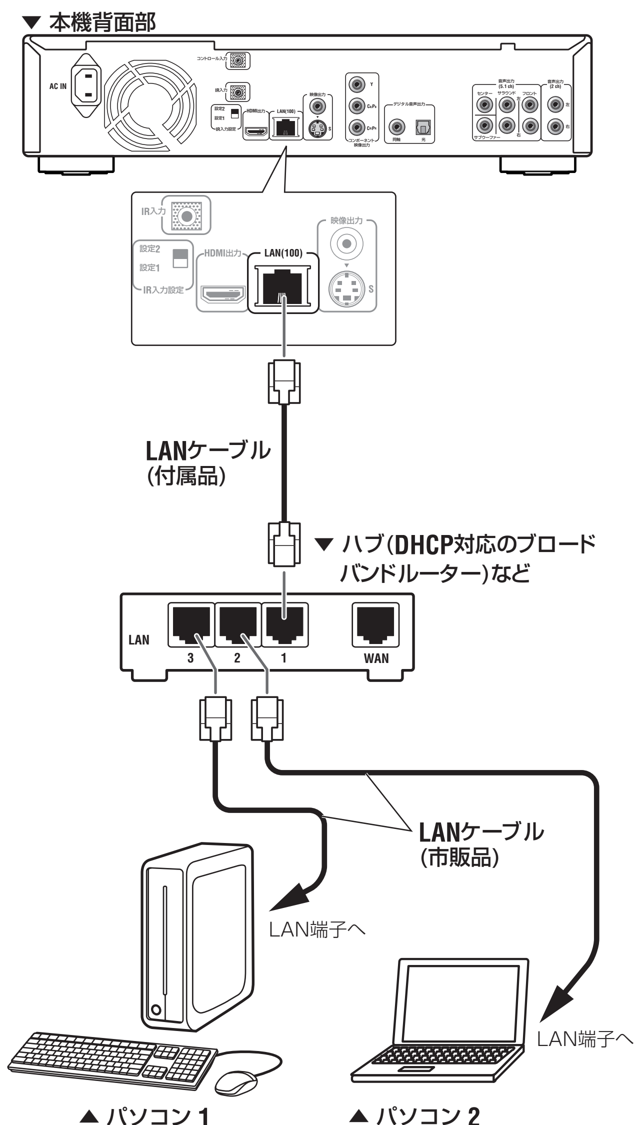
LAN ケーブル (付属品) を使ってパソコン (PC) やハブに接続します。接続後、ネットワークの設定を行ってください。☛ **19 ページ**
また、ネットワーク上のファイルを再生するときはホームメディアギャラリーを使います。☛ **33 ページ**

ハブを経由して複数のパソコンに接続する

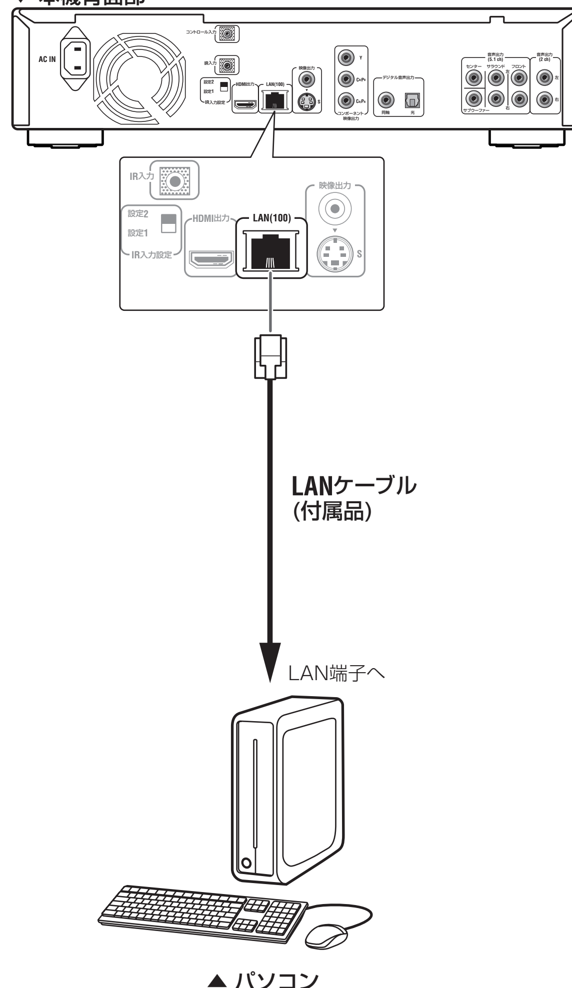
すでにネットワーク環境が構築されているときは、LAN ケーブル (付属品) でハブ (DHCP 対応のブロードバンドルーターなど) を経由してネットワークに接続できます。

お知らせ

- 100BASE-TX に対応しているイーサネットハブをお使いください。



パソコンと直接接続する



セットアップナビを使って設定する

本機をお使いになる際に必要な最低限の設定を行います。

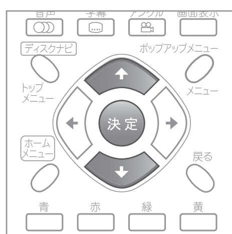
1 電源をオンにする



2 テレビの電源をオンにして、入力を切り換える

- 詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビコントロールを設定しているときは本機のリモコンで操作できます。☛ **20 ページ**

3 [開始] を選んで決定する



セットアップナビ
ご使用前にBDプレーヤーの簡易設定を行います。
開始
中止
各項目の詳細な設定を行う場合は、別途本体設定を行ってください。

セットアップナビで設定しないときは、[中止] を選びます。

セットアップナビが表示されないとき

1 **ホームメニューボタン**を押してホームメニューを表示します。

2 [本体設定] → [オプション] → [セットアップナビ] → [開始] を選んで**決定ボタン**を押します。

4 本機から出力する映像信号を選んで決定する

HDMI ケーブルで接続しているとき

セットアップナビ
出力解像度
● 自動
480i
480p
720p
1080i
1080p
ソースダイレクト

- 通常は [自動] に設定します。
- 設定が完了すると [テレビの縦横比] は自動で [16:9 (ワイドテレビ)] に設定されます。

市販のコンポーネントビデオ、S ビデオケーブル、または付属のビデオケーブルで接続しているとき

セットアップナビ
出力解像度
S-Video/Video接続のみ
480i
480p
720p
1080i
● わからない

- [720p] または [1080i] を選ぶと [テレビの縦横比] は自動で [16:9(ワイドテレビ)] に設定されます。

5 接続しているテレビの画面サイズを設定する

セットアップナビ
テレビの縦横比
● 16:9(ワイドテレビ)
4:3

6 [設定完了] を選んで決定する

セットアップナビ
これでセットアップナビは終了です。BDプレーヤーをお楽しみください。
設定完了
やり直し

お知らせ

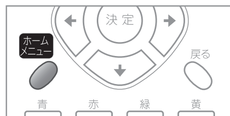
スクリーンセーバーについて

・ 再生を停止、または一時停止してから 5 分以上ボタンを操作しないと、自動でスクリーンセーバーが始まります。本体、またはリモコンを操作するとスクリーンセーバーは終わります。
・ CD や音楽ファイルでは、再生中でも 5 分以上ボタンを操作しなければ、スクリーンセーバーが始まります。

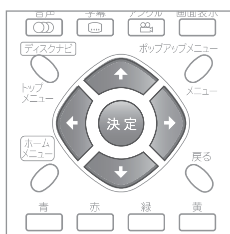
ネットワークの設定をする

この設定は、ホームメディアギャラリーを使ってローカルエリアネットワーク(LAN)(以下、ネットワーク) 上のファイルを再生するときに必要な設定です。

1 ホームメニューを表示する

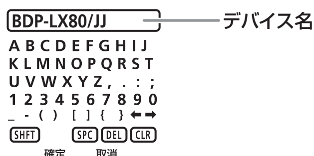


2 [本体設定] → [ネットワーク] → [デバイス名] → [次画面へ] を選んで決定する



3 文字を入力して、本機に名前を付ける

- ⬆/⬇/⬅/➡ で文字を選んで、**決定ボタン**で確定します。
- ここで付けた名前でネットワーク上の機器に表示されます。



4 [確定] を選んで決定する

- 名前が登録されて、デバイス名入力画面が終了します。
- [取消] を選んで決定すると名前が登録されずにデバイス名入力画面が終了します。

5 [IP アドレス設定] → [次画面へ] を選んで決定する

次の画面に進みます。

本体設定

映像出力
音声出力
言語
視聴制限
ネットワーク
スピーカー
オプション

IPアドレス設定
IPアドレス自動取得　しない
IPアドレス　192. 255. 255. 0
サブネットマスク　255. 255. 255. 0
デフォルトゲートウェイ　192. 168.　1 . 0

6 [IP アドレス自動取得] を [する] に設定する

LAN 上に DHCP サーバーがあるとき

DHCP サーバーが自動で IP アドレスを設定します。

DHCP サーバー機能が付いているブロードバンド対応機器(ルーター / モデム)を使っているとき

ブロードバンド対応機器が自動で IP アドレスを設定します。

ネットワーク上に DHCP サーバーがないとき

本機が自動で IP アドレスを設定します(オート IP 機能)。

手動で IP アドレスを設定したいとき

[しない] を選んで [IP アドレス]、[サブネットマスク]、および [デフォルトゲートウェイ] を設定します。プロバイダー、またはネットワーク管理者に確認してから設定してください。

ネットワーク上の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

本体設定画面を終了するには

- **ホームメニューボタン**を押します。

お知らせ

・ホームメディアギャラリーを使って再生するときは「ネットワーク上のファイルを再生する (ホームメディアギャラリー)」をご覧ください。☛ **33 ページ**

本機のリモコンでテレビを操作する

お使いのテレビのメーカーのメーカーコードを本機のリモコンに設定すると、本機のリモコンでお使いのテレビを操作できます。

1 2 桁のメーカーコードを入力する

テレビコントロールの ⏻ **電源ボタン**を押しながら、**数字ボタン (0 ～ 9)** を押して入力します。



メーカーコード表

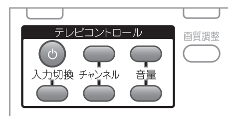
パイオニア	00※、51
RCA	01、15、16、17、18、61、62
シャープ	02、19、27、67、90
ソニー	04
東芝	05、26
日立	06、24、25、33、34、54
Philips	07、56、68
松下	08、22
三菱	09
Goldstar	10、23、50
ビクター	13
サンヨー	14、21、45、91
富士通ゼネラル	29
フナイ	40
NEC	59
アイワ	60
Samsung	44、46、69、70
ユニデン	92

※お買い上げ時の設定

お知らせ

- コードを間違えて入力したときは始めから設定し直してください。
- 1 つのメーカーに複数のメーカーコードがあるときは、操作できるまで順に設定してください。

2 テレビを操作できるか確認する



ご注意

- メーカーコード表にあるメーカーのテレビでも、機種によっては操作できないことがあります。
- 電池を交換すると、お買い上げ時の設定に戻ることがあります。このときは、設定し直してください。

解像度を切り換える

各映像出力端子から出力される映像の解像度を切り換えます。

1 解像度を切り換える



- 本体前面部の OUTPUT RESOLUTION ボタンでも切り換えられます。
- 映像出力端子によって出力される解像度が異なります。下記の表をご覧ください。

解像度の設定	HDMI 出力端子	コンポーネント映像出力端子	映像 /S 映像出力端子
自動	テレビで設定した解像度※3, 5	テレビで設定した解像度※6	480/60i
480i	480/60i	480/60i	
480p	480/60p	480/60p	
720p	720/60p	720/60p※1, 2	
1080i	1080/60i	1080/60i※1, 2	
1080p	1080/60p	480/60i	
ソースダイレクト	ディスクに記録されている解像度※3, 5	ディスクに記録されている解像度※2, 4, 5, 7	

※1 DVD によっては 480i で出力されます。
※2 BD によっては 480i で出力されることがあります。
※3 “フィルム素材 (1080/24p、または 720/24p 映像信号)”の出力については「“フィルム素材”を出力する (24p Direct 出力)」をご覧ください。☛ 右記
※4 “フィルム素材”を 1 秒間に 60 コマのプログレッシブ映像信号に変換して出力します。
※5 解像度を切り換えたとき、映像がしばらく表示されないことがあります。
※6 コンポーネント映像出力端子から出力できない解像度のときは、480i で出力されます。
※7 1080/60p、および 1080/24p では出力されません。

フィルム素材とは

- 映像情報が 1 秒間に 24 コマ記録されている映像信号です。1080/24p、または 720/24p 映像信号などがあります。

ご注意

- 解像度を切り換えると映像が正しく表示されないテレビがあります。このときは、**解像度切換ボタン**で映像が正しく表示される解像度に設定してください。
- 解像度を [720p]、[1080i]、または [1080p] に設定したときは、[テレビの縦横比] が [4:3] に設定されていても [16:9(ワイドテレビ)] で出力されます。☛ **44 ページ**。

- 映像の輪郭がギザギザに見える、またはブレて見えるときは、解像度を [480i] に切り換えてください。ただし、本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しているときに解像度を [480i] に設定すると映像が出力されないことがあります。このときは、コンポーネントビデオケーブルで接続して解像度を 480i に切り換えるか、S ビデオケーブル、またはビデオケーブルで接続してください。
- 接続状況によっては、480/60i は 480/60p で出力されます。

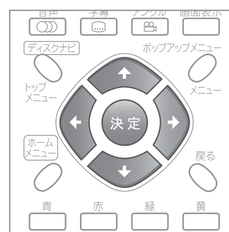
“フィルム素材”を出力する (24p Direct 出力)

1080/24p、または 720/24p の“フィルム素材”を鮮明に表示するには、[24p Direct 出力] を [オン] に設定します。

1 ホームメニューを表示する



2 [本体設定] → [映像出力] → [24p Direct 出力] を選んで決定する



“フィルム素材”を HDMI 出力端子から出力するときは [24p Direct 出力] を [オン] に設定して、解像度を下記のように設定してください。

- 1080/24p 映像を再生するとき : [自動]、または [ソースダイレクト]
- 720/24p 映像を再生するとき : [自動]

ご注意

- お使いのテレビが“フィルム素材”の出力に対応していないときは、[24p Direct 出力] を [オン] に設定しても、映像出力の 60 コマ / 秒で出力されます。
- 解像度を切り換えたとき、映像がしばらく表示されないことがあります。
- “フィルム素材”は HDMI 出力端子からのみ出力できます。コンポーネント映像出力端子からは出力されません。

ディスク / ファイルを再生する

再生できるディスクについては「再生できるディスク」をご覧ください。
☛ 7 ページ

1 電源をオンにする



あらかじめ、テレビの電源をオンにして、入力を切り換えてください。

2 ディスクテーブルを開閉してディスクをセットする



お知らせ

- 印刷面を上にしてディスクをセットしてください。
- ディスクの読み込みには数十秒かかります。読み込みが終了すると本体表示窓にディスクの種類が表示されます。

3 再生する

メニュー画面 (ディスクメニュー) が表示されたとき

● 再生を始めると自動でメニュー画面を表示するディスクがあります。メニュー画面の内容や操作方法はディスクによって異なります。

停止した場所から再生する (リジューム再生)

● 再生中に ■ **ボタン**を押すと、停止した場所を記憶します。▶ **ボタン**を押すと停止した場所から再生します。
● CD、または動画 / 音楽ファイルのときは、再生していたタイトル / トラックの先頭から再生します。
● 画像ファイルをスライドショー再生していたときは、表示されていた画像ファイルから再生します。
● リジューム再生を解除するには、停止中に ■ **ボタン**を押します。

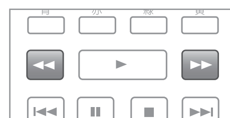
お知らせ

下記のときリジューム再生は自動で解除されます。
- ディスクを取り出したとき
- ディスクナビ、またはホームメディアギャラリーを表示したとき
- 電源をオフにしたとき (DVD は解除されません。)
- リジューム再生できないディスクもあります。

早送り / 早戻しする



1 再生中に ◀◀/▶▶ を押す



押すたびに速さを切り換えられます。段階はディスクによって異なります（テレビ画面に速さが表示されます）。

お知らせ

- 早送り / 早戻し中は音声が出ません。
- チャプターが切り換わると自動で通常の再生に戻るディスクがあります。
- 動画 / 画像 / 音楽ファイルは早送り / 早戻しできません。

通常の再生に戻すには

● ▶ **ボタン**を押します。

タイトル / チャプター / トラックを指定して再生する



1 再生したいタイトル / チャプター / トラック番号を選ぶ



お知らせ

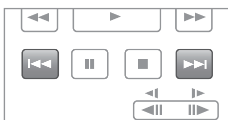
- タイトルを指定できないディスクもあります。このときは、チャプターを指定します。
- タイトル / チャプター / トラックを指定して再生できないディスクもあります。

頭出し（スキップ）する



動画ファイル
音楽ファイル
画像ファイル

1 再生中に ⏮/⏭ を押す



- ● ⏭ を押すと次のタイトル / チャプター / トラック / ファイルの先頭に進みます。
- ● ⏮ を押すと再生中のタイトル / チャプター / トラック / ファイルの先頭に戻ります。2 回続けて押すと 1 つ前に戻ります。

お知らせ

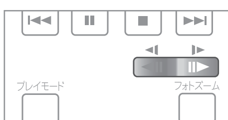
- 頭出しできないディスク、または動画 / 画像 / 音楽ファイルもあります。

スロー再生する



動画ファイル
音楽ファイル
画像ファイル

1 再生中に II▶ を押す。



押すたびに速さを切り換えられます（テレビ画面に速さが表示されます）。

お知らせ

- スロー再生中は音声が出ません。
- チャプターが切り換わると自動で通常の再生に戻るディスクがあります。
- 逆方向のスロー再生はできません。
- 再生するディスクによってはスロー再生できないことがあります。
- 動画 / 画像 / 音楽ファイルはスロー再生できません。

通常の再生に戻すには

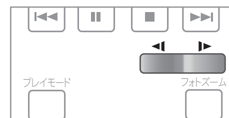
● ▶ **ボタン**を押します。

コマ送り / コマ戻し再生する



動画ファイル
音楽ファイル
画像ファイル

1 一時停止中に◂I / I▸を押す



押すたびにコマ送り / コマ戻しします。

お知らせ

- コマ戻し再生はフレーム単位ではありません。
- チャプターが切り換わると自動で通常の再生に戻るディスクもあります。
- 再生するディスクによってはコマ送り / コマ戻し再生できないことがあります。
- 動画 / 画像 / 音楽ファイルはコマ送り / コマ戻し再生できません。

通常の再生に戻すには

● ▶ **ボタン**を押します。

アングルを切り換える

複数のアングルが収録されているディスクでは、再生中にアングルを切り換えられます。



動画ファイル
音楽ファイル
画像ファイル

1 再生中に アングルを押す



現在のアングルと収録されているアングルの総数が表示されます。押すたびにアングルが切り換わります。

お知らせ

- メニュー画面でアングルを切り換えられるディスクもあります。

画像を拡大する



1 スライドショー再生中にフォトズームボタンを押す



- 拡大する場所 (ズームエリア) が表示されます。
- ↑/↓/←/→ でズームエリアを移動できます。
- 押すたびに倍率が切り換わります (2 倍→ 4 倍→通常→…)。

字幕を切り換える

複数の字幕が収録されているディスクでは、再生中に字幕を切り換えられます。



1 字幕ボタンを押す



- 押すたびに切り換わります。
- 現在の字幕がテレビ画面と本体表示窓に表示されます。



お知らせ

- **字幕ボタン**を押しても字幕が切り換わらないときは、メニュー画面で切り換えてください。

字幕を消すには

- **字幕ボタン**を押してから**クリアボタン**を押します。

音声を切り換える

複数の音声が収録されているタイトルでは、再生中に音声を切り換えられます。



1 音声ボタンを押す



- 押すたびに切り換わります。
- 現在の音声がテレビ画面に表示されます。



お知らせ

- **音声ボタン**を押しても音声が切り換わらないときは、メニュー画面で切り換えてください。

ディスクの情報を見る



1 画面表示ボタンを押す



- テレビ画面に表示されます。押すたびに表示される情報が切り換わります。
- 再生中と停止中で表示される情報が異なります。

プレイモード機能を使って再生する

ディスクや動画 / 画像 / 音楽ファイルの種類によってできる機能が異なります。下記の表でご確認ください。

プレイモードの種類	ディスク / ファイルの種類					
	BD-ROM	DVD ビデオ	動画ファイル	画像ファイル	音楽ファイル	CD
タイトルを繰り返し再生する (リピートタイトル)	○	○	○	×	×	×
チャプターを繰り返し再生する (リピートチャプター)	○	○	×	×	×	×
トラックを繰り返し再生する (リピートトラック)	×	×	×	×	○	○
すべてのタイトル / トラックを繰り返し再生する (リピートオール)	×	×	×	○	○	○
繰り返し再生を解除する (リピートオフ)	○	○	○	○	○	○
順不同に再生する (ランダム)	×	×	×	○	○	○
時間を指定して再生する (タイムサーチ)	○	○	○	×	×	×
タイトルを指定して再生する (タイトルサーチ)	○	○	×	×	×	×

繰り返し再生する（リピート再生）

1 プレイモード画面を表示する

再生中に**プレイモードボタン**を押します。



2 リピート再生の種類を選ぶ

プレイモードボタンを押すたびに種類が切り換わります。

リピートの種類は下記のとおりです。

- **リピートタイトル**：再生中のタイトルを繰り返します。
- **リピートチャプター**：再生中のチャプターを繰り返します。
- **リピートトラック**：再生中のトラックを繰り返します。
- **リピートオール**：再生中のディスク、またはアルバムを繰り返します。
- **リピートオフ**：通常の再生に戻ります。

お知らせ

- リピート再生できないディスク、または動画 / 画像 / 音楽ファイルがあります。
- 再生しているディスク、または動画 / 画像 / 音楽ファイルによってリピートの種類が異なります。

順不同に再生する（ランダム再生）

1 プレイモード画面を表示する

再生中に**プレイモードボタン**を押します。



2 ランダムを選ぶ

プレイモードボタンで選びます。

お知らせ

- ランダム再生できないディスク、または画像 / 音楽ファイルがあります。

時間を指定して再生する（タイムサーチ）

1 プレイモード画面を表示する

再生中に**プレイモードボタン**を押します。



2 タイムサーチを選ぶ

プレイモードボタンで選びます。

3 時間を入力する

● **数字ボタン**、または **⬆/⬇ ボタン**で時間を入力して**決定ボタン**を押します。

● 再生が始まります。



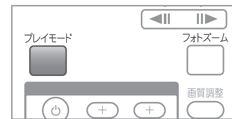
お知らせ

- タイムサーチできないディスク、または動画ファイルがあります。
- ネットワーク上の機器の動作環境などによってタイムサーチできない動画ファイルがあります。

タイトルを指定して再生する（タイトルサーチ）

1 プレイモード画面を表示する

再生中に**プレイモードボタン**を押します。



2 タイトルサーチを選ぶ

プレイモードボタンで選びます。

3 タイトル番号を入力する

● **数字ボタン**でタイトル番号を入力して**決定ボタン**を押します。

● 再生が始まります。



お知らせ

- タイトルサーチできないディスクがあります。

ディスクに記録されているファイルを再生する（ディスクナビ）

再生できるファイルの種類については「再生できるファイル」をご覧ください。
☛ 8 ページ

動画ファイルを再生する（ムービーナビゲーター）

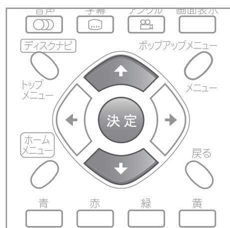
DVD-R/-RW に記録されている動画ファイルを再生できます。記録されている動画ファイルを一覧で表示して、再生や検索などができます (ムービーナビゲーター)。

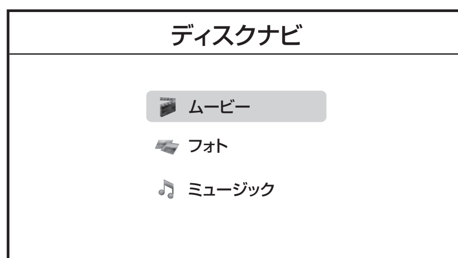
1 ディスクナビを表示する



ホームメニューから [ディスクナビ] を選んで**決定ボタン**を押しても表示できます。

2 [ムービー] を選んで決定する

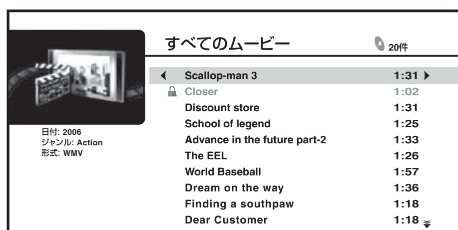




- 記録されているすべての動画ファイルの名前と再生時間が表示されます。
- 左側に選んだ動画ファイルの情報が表示されます。

3 再生したい動画ファイルを選んで決定する

⬆/⬇ ボタンで選んで、**決定ボタン**を押します。



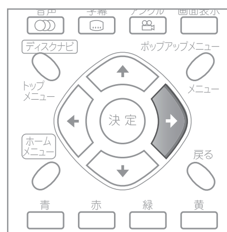
再生が始まります。

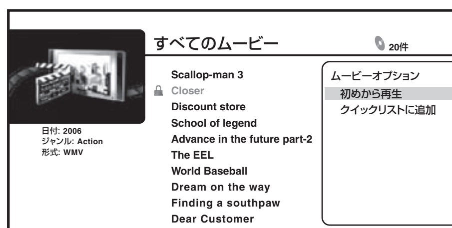
ディスクナビを終了するには

- **ホームメニューボタン**を押します。

ムービーオプションメニューを表示する

1 ムービーオプションメニューを表示する





- **初めから再生**：選んだ動画ファイルの再生を始めます。
- **クイックリストに追加**：選んだ動画ファイルをクイックリストに追加します。

クイックリストとは

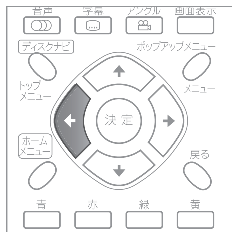
- 再生する回数が多い動画ファイルを一覧で表示できます。
- 最大 25 ファイルまでリストに追加できます。

お知らせ

下記のとき、クイックリストは消去されます。
- ムービーナビゲーターを終了したとき
- 電源をオフにしたとき

ブラウズメニューを表示する

1 ブラウズメニューを表示する



すべてのムービー 20件

Scallop-man 3	1:31
Closer	1:02
Discount store	1:31
School of legend	1:25
Advance in the future part-2	1:33
The EEL	1:26
World Baseball	1:57
Dream on the way	1:36
Finding a southpaw	1:18
Dear Customer	1:18

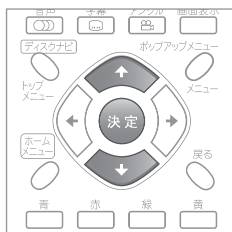
すべてのムービー
ブラウズ
サーチ
ソート

- **すべてのムービー**：記録されているすべての動画ファイルを表示します。
- **ブラウズ**：動画ファイルの表示方法を切り換えます。
- **サーチ**：タイトル名、またはジャンル名で動画ファイルを検索します (タイトル名が付いていないときはファイル名が表示され、ファイル名で検索します)。☛ 右記
- **ソート**：動画ファイルを日付、またはアルファベット順に並べ替えます。

動画ファイルの表示方法を切り換える (ブラウズ)

ジャンル、クイックリスト、またはフォルダーごとに表示できます。

1 [ブラウズ] を選んで決定する



2 表示方法を切り換える

すべてのムービー 20件

Scallop-man 3	1:31
Closer	1:02
Discount store	1:31
School of legend	1:25
Advance in the future part-2	1:33
The EEL	1:26
World Baseball	1:57
Dream on the way	1:36
Finding a southpaw	1:18
Dear Customer	1:18

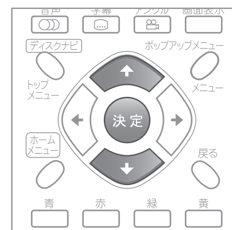
戻る
ジャンル
クイックリスト
フォルダー

- **戻る**：前の画面に戻ります。
- **ジャンル**：ジャンルごとに表示します。各ジャンルの総ファイル数も表示されます。
- **クイックリスト**：クイックリストを表示します。➡ を押すとムービーオプションメニューが表示されます。ムービーオプションメニューから動画ファイルを再生できます。また、クイックリストから動画ファイルを削除できます。
- **フォルダー**：フォルダーごとに表示します。フォルダーを選んで**決定ボタン**を押すと、動画ファイル (または下層のフォルダー) が表示されます。

動画ファイルを検索する (サーチ)

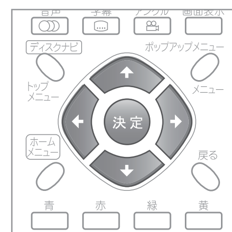
タイトル名またはジャンル名で検索します。

1 [サーチ] を選んで決定する



2 タイトル名、またはジャンル名を入力する

- **⬆/⬇/⬅/➡ ボタン**で文字を選んで、**決定ボタン**で確定します。
- 最大 20 文字まで入力できます。



検索結果 4件

Scallop-man 3	1:31
Say No	1:02
School of legend	1:31
Seesaw	1:33

S_
A B C D E F G H I J
K L M N O P Q R S T
U V W X Y Z
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
SHFT SPC DEL CLR
確定 取消
ホームメニュー で終了

- **SHFT**：大文字と小文字を切り換えます。
- **SPC**：空白を入力します。
- **DEL**：選んでいる文字を消去します。
- **CLR**：入力した文字をすべて消去します。
- **確定**：検索を終了します。検索結果からタイトルまたはジャンルを選びます。
- **取消**：検索を終了します。検索結果は消去されます。

画像ファイルを再生する (フォトナビゲーター)

DVD-R/-RW に記録されている画像ファイルを再生できます。記録されている画像ファイルを一覧で表示して、再生や検索などができます (フォトナビゲーター)。

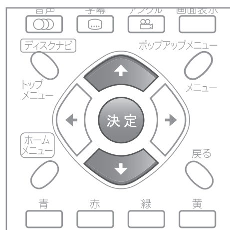
1 ディスクナビを表示する

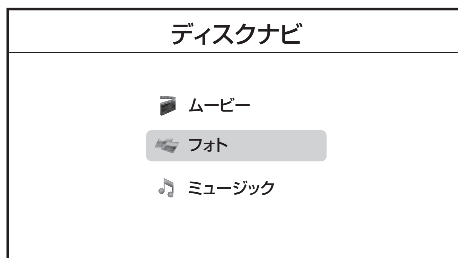
ディスクナビボタンを押します。



ホームメニューから [ディスクナビ] を選んで**決定ボタン**を押しても表示できます。

2 [フォト] を選んで決定する



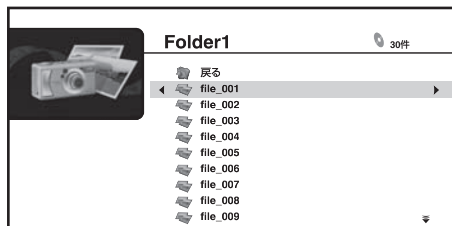


3 フォルダーを選んで決定する



記録されているすべてのフォルダー (または画像ファイル) が表示されます。

4 再生したい画像ファイルを選んで決定する



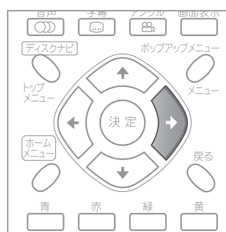
選んだ画像ファイルが表示されます。

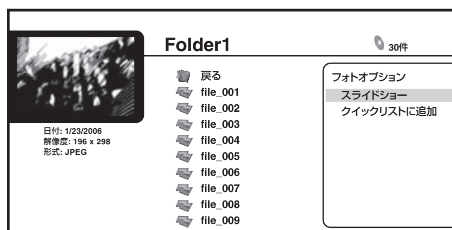
ディスクナビを終了するには

- **ホームメニューボタン**を押します。

フォトオプションメニューを表示する

1 フォトオプションメニューを表示する





- **スライドショー**：選んだ画像ファイルからスライドショー再生を始めます。⏮/⏭ **ボタン**で前後の画像ファイルを表示できます。また、画像ファイルを拡大して表示できます。☛ **24 ページ**
- **クイックリストに追加**：選んだ画像ファイルをクイックリストに追加します。

クイックリストとは

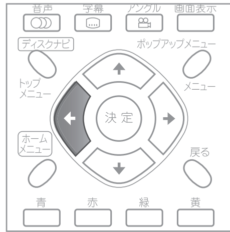
- 再生する回数が多い画像ファイルを一覧で表示できます。
- 最大 25 ファイルまでリストに追加できます。

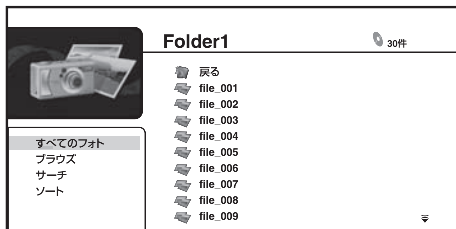
お知らせ

下記のとき、クイックリストは消去されます。
- フォトナビゲーターを終了したとき
- 電源をオフにしたとき

ブラウズメニューを表示する

1 ブラウズメニューを表示する





- **すべてのフォト**：記録されているすべての画像ファイルを表示します。
- **ブラウズ**：画像ファイルの表示方法を切り換えます。
- **サーチ**：ファイル名で画像ファイルを検索します。文字の入力方法については「動画ファイルを検索する (サーチ)」をご覧ください。☛ **28 ページ**
- **ソート**：画像ファイルを日付、またはアルファベット順に並べ替えます。

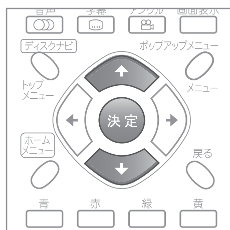
お知らせ

- クイックリスト、またはフォルダーごとに表示しているときは、サーチ、およびソートができません。

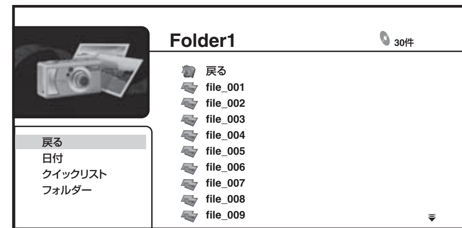
画像ファイルの表示方法を切り換える (ブラウズ)

日付、クイックリスト、またはフォルダーごとに表示できます。

1 [ブラウズ] を選んで決定する



2 表示方法を切り換える



- **戻る**：前の画面に戻ります。
- **日付**：年、または月ごとに表示します。
- **クイックリスト**：クイックリストを表示します。

  ➡ ボタンを押すとフォトオプションメニューが表示されます。フォトオプションメニューからスライドショーを再生できます。また、クイックリストから画像ファイルを消去できます。
- **フォルダー**：フォルダーごとに表示します。フォルダーを選んで**決定ボタン**を押すと画像ファイル (または下層のフォルダー) が表示されます。

音楽ファイルを再生する (ミュージックナビゲーター)

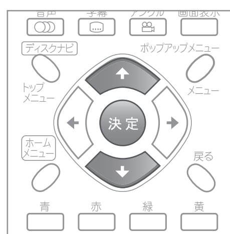
DVD-R/-RW に記録されている音楽ファイルを再生できます。記録されている音楽ファイルを一覧で表示して、再生や検索などができます (ミュージックナビゲーター)。

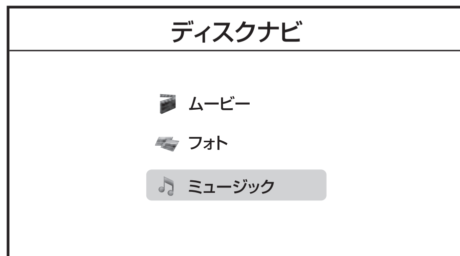
1 ディスクナビを表示する



ホームメニューから [ディスクナビ] を選んで**決定ボタン**を押しても表示できます。

2 [ミュージック] を選んで決定する





アーティスト名が一覧で表示されます。

3 アーティストを選んで決定する



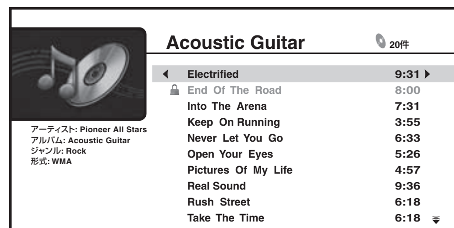
選んだアーティストのアルバム名が表示されます。

4 アルバムを選んで決定する

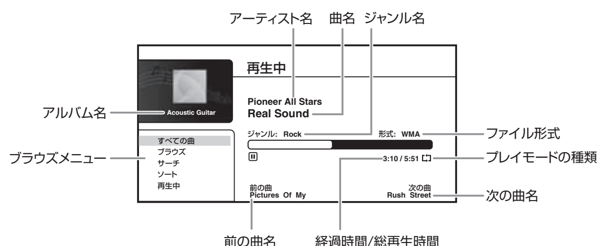


- アルバムに収録されている音楽ファイルが一覧で表示されます。
- 再生時間が取得できない音楽ファイルの時間は「－：－－」と表示されます。
- 左側に選んだ音楽ファイルの情報が表示されます。

5 再生したい音楽ファイルを選んで決定する



- 再生が始まって、再生中画面 (下記) が表示されます。

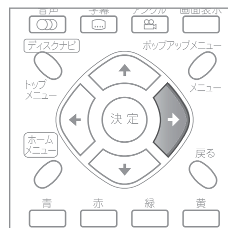


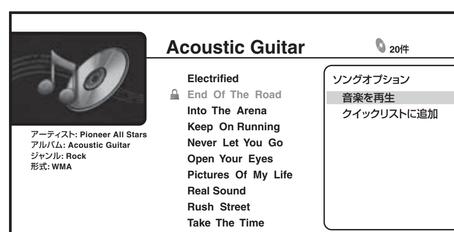
ディスクナビを終了するには

- **ホームメニューボタン**を押します。

ソングオプションメニューを表示する

1 ソングオプションメニューを表示する





- **音楽を再生**：選んだ音楽ファイルを始めから再生します。
- **クイックリストに追加**：選んだ音楽ファイルをクイックリストに追加します。

クイックリストとは

- 再生する回数が多い音楽ファイルを一覧で表示できます。
- 最大 25 ファイルまでリストに追加できます。

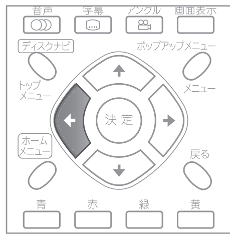
お知らせ

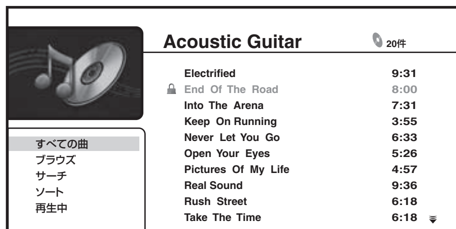
下記のとき、クイックリストは消去されます。

- ミュージックナビゲーターを終了したとき
- 電源をオフにしたとき

ブラウズメニューを表示する

1 ブラウズメニューを表示する



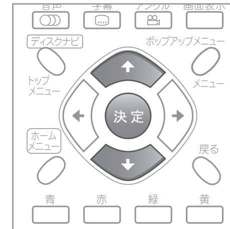


- **すべての曲**：記録されているすべての音楽ファイルを表示します。
- **ブラウズ**：音楽ファイルの表示方法を切り換えます。
- **サーチ**：トラック名、アーティスト名、アルバム名、またはジャンル名で音楽ファイルを検索します。文字の入力方法については「動画ファイルを検索する(サーチ)」をご覧ください。☛ **28 ページ**
- **ソート**：音楽ファイルを日付、またはアルファベット順に並べ替えます。
- **再生中**：現在再生している音楽ファイルの情報を表示します。

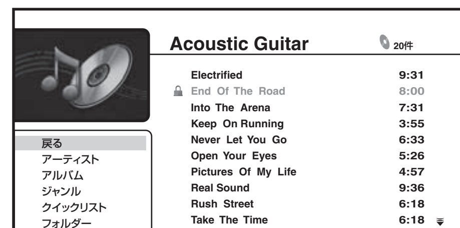
音楽ファイルの表示方法を切り換える(ブラウズ)

アーティスト、アルバム、ジャンル、クイックリスト、またはフォルダーごとに表示できます。

1 [ブラウズ]を選んで決定する



2 表示方法を切り換える



- **戻る**：前の画面に戻ります。
- **アーティスト**:アーティストごとに表示します。アーティストを選んで**決定ボタン**を押すとアルバムが表示されます。
- **アルバム**：アルバムごとに表示します。アルバムを選んで**決定ボタン**を押すと曲が表示されます。
- **ジャンル**：ジャンルごとに表示します。ジャンルを選んで**決定ボタン**を押すとアーティストが表示されます。
- **クイックリスト**：クイックリストを表示します。
  ➡ ボタンを押すとソングオプションメニューが表示されます。ソングオプションメニューから音楽ファイルを再生できます。また、クイックリストから音楽ファイルを削除できます。
- **フォルダー**：フォルダーごとに表示します。フォルダーを選んで**決定ボタン**を押すと音楽ファイル(または下層のフォルダー)が表示されます。

ネットワーク上のファイルを再生する（ホームメディアギャラリー）



本機はネットワーク上の機器に保存されている動画、音楽、または画像ファイルをホームメディアギャラリーを使って再生できます。本機は下記の機器と接続できます。

●OS が Microsoft Windows XP Service Pack 2 で Windows Media Connect がインストールされているパソコン
●OS が Microsoft Windows Vista、または Microsoft Windows XP Service Pack 2 で Windows Media Player 11 がインストールされているパソコン
●DLNA に対応しているデジタルメディアサーバー (パソコンなど)

再生できるファイルの種類については「再生できるファイル」をご覧ください。
☛ 8 ページ

ホームメディアギャラリーを使ってネットワーク上の機器に保存されているファイルを再生するには、あらかじめネットワークの設定を行う必要があります。DHCP 機能が付いている機器と接続しているときはを自動で設定できます。☛ 19 ページ

お知らせ

- 本機は下記の技術を使ってネットワーク上の機器に保存されている動画 / 画像 / 音楽ファイルを再生します。各技術の詳細については「用語の解説」もあわせてご覧ください。
  ☛ 62 〜 64 ページ
  ― Windows Media Player 11/Windows Media Connect
  ― Windows Media DRM
  ― DLNA
- 本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。詳しくは「再生できるファイル」をご覧ください。
  ☛ 8 ページ
- 接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
- 対応しているファイルの形式は接続している機器によって異なります。接続している機器が対応していない形式のファイルは表示されません。詳しくはお使いの機器のメーカーにお問い合わせください。



◆ DLNA CERTIFIED™ Audio/Video/Image Player
DLNA および DLNA CERTIFIED™ は Digital Living Network Alliance の商標です。

ご注意

- 接続している機器の性能や状態によって再生が停止したり、正しく再生できないことがあります。
- ネットワークの通信が混雑していると、ファイルが表示されない、または再生できないことがあります。ネットワーク上の機器と接続するときは 100BASE-TX でのご利用をお勧めします。
- 複数の機器が同じファイルを同時に再生すると再生が停止することがあります。
- 接続している機器にインターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされているとホームメディアギャラリーを表示できないことがあります。
- 当社は本機とネットワーク上で接続している機器の不具合やファイル、またはデータの破損などに関して一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。接続している機器のメーカー、またはプロバイダーにお問い合わせください。

接続しているサーバーに本機を認証させる

● ホームメディアギャラリーを使ってサーバーに保存されているファイルを再生するには、あらかじめサーバーが本機を認証 (許可) している必要があります。認証 (許可) 方法は接続しているサーバーによって異なります。詳しくはサーバーの取扱説明書をご覧ください。

Windows Media DRM について

◆ Windows Media デジタル著作権管理 (DRM)(以下、WMDRM) は、コンピューター、デジタルオーディオプレーヤー、ネットワーク機器などの再生を防いだり、デジタルコンテンツを安全に配信するためのプラットフォームです。ホームメディアギャラリーは WMDRM 10 for networked devices にもとづいて機能します。WMDRM で保護されたコンテンツは WMDRM の機能を有するメディアサーバーと接続したときのみ再生できます。

コンテンツ所有者は、著作権を含む知的所有権を保護するために Windows Media デジタル著作権管理テクノロジ (WMDRM) を使用します。本製品は、WMDRM で保護されたコンテンツにアクセスするために WMDRM ソフトウェアを使用します。WMDRM ソフトウェアがコンテンツの保護に失敗した場合、コンテンツ所有者は保護されたコンテンツの再生やコピーのために WMDRM を使用しているソフトウェアの能力を無効にするよう、マイクロソフトに要請することがあります。
無効化は、保護されていないコンテンツには影響を与えません。あなたが保護されたコンテンツに対するライセンスをダウンロードするとき、マイクロソフトがそのライセンスと一緒に失効リストを含ませせることがあることに同意してください。コンテンツ所有者は、それらのコンテンツのアクセスに対して WMDRM をアップグレードすることを要求することがあります。もしアップグレードを断るなら、あなたはアップグレードを要求するコンテンツへアクセスすることができなくなります。

本製品は、米国 Microsoft Corporation の知的所有権により保護されています。米国 Microsoft Corporation の許可を得ずにこの技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

動画ファイルを再生する（ムービーナビゲーター）

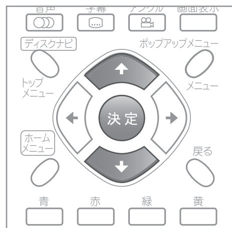
ネットワーク上の機器に保存されている動画ファイルを再生できます。保存されている動画ファイルを一覧で表示して、再生や検索などができます (ムービーナビゲーター)。

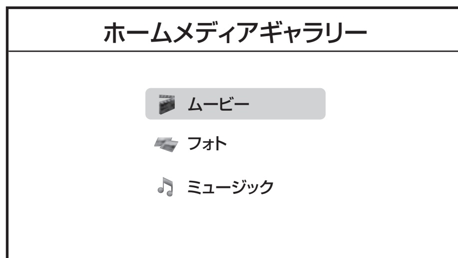
1 ホームメディアギャラリーを表示する



ホームメニューから [ホームメディアギャラリー] を選んで**決定ボタン**を押しても表示できます。

2 [ムービー] を選んで決定する

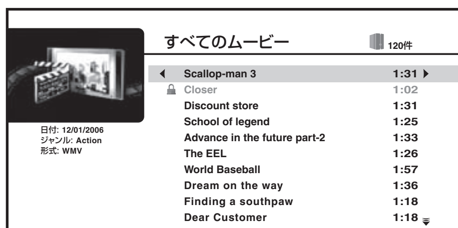




● 保存されているすべての動画ファイルの名前と再生時間が表示されます。

● 左側に選んだ動画ファイルの情報が表示されます。

3 再生したい動画ファイルを選んで決定する



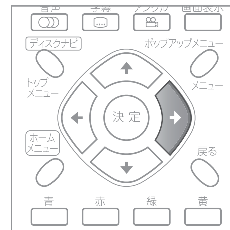
再生が始まります。

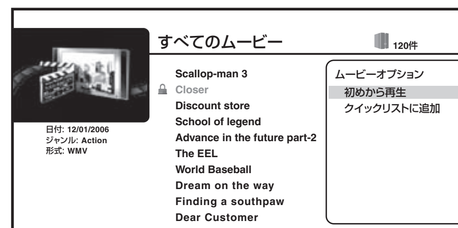
ホームメディアギャラリーを終了するには

● **ホームメディアギャラリーボタン** (または**ホームメニューボタン**) を押します。

ムービーオプションメニューを表示する

1 ムービーオプションメニューを表示する





● **初めから再生**：選んだ動画ファイルの再生を始めます。

● **クイックリストに追加**：選んだ動画ファイルをクイックリストに追加します。

クイックリストとは

● 再生する回数が多い動画ファイルを一覧で表示できます。

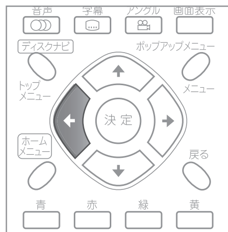
● 最大 25 ファイルまでリストに追加できます。

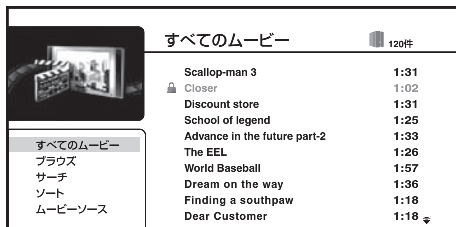
お知らせ

下記のときクイックリストは消去されます。
- ムービーナビゲーターを終了したとき
- ネットワークの接続を変更したとき (ムービーソース画面で機器を変更したとき)
- 電源をオフにしたとき

ブラウズメニューを表示する

1 ブラウズメニューを表示する



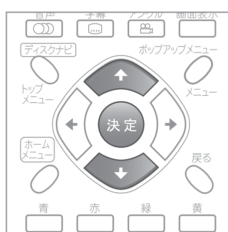


- **すべてのムービー**：保存されているすべての動画ファイルを表示します。
- **ブラウズ**：動画ファイルの表示方法を切り換えます。
- **サーチ**：タイトル名、またはジャンル名で動画ファイルを検索します (タイトル名が付いていないときはファイル名が表示され、ファイル名で検索します)。☛ **右記**
- **ソート**：動画ファイルを日付順、またはアルファベット順に並べ替えます。
- **ムービーソース**：ネットワーク上の機器を表示します。機器の表示 / 変更方法については「ネットワーク上の機器を表示する」をご覧ください。☛ **36 ページ**

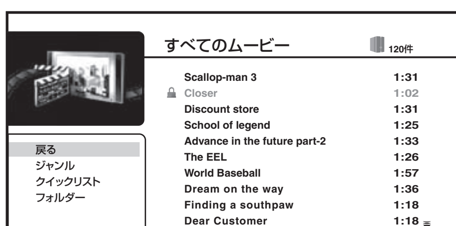
動画ファイルの表示方法を切り換える (ブラウズ)

ジャンル、クイックリスト、またはフォルダーごとに表示できます。

1 [ブラウズ] を選んで決定する



2 表示方法を切り換える

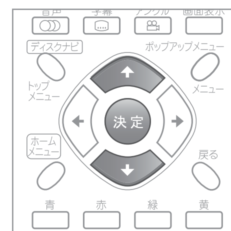


- **戻る**：前の画面に戻ります。
- **ジャンル**：ジャンルごとに表示します。各ジャンルの総ファイル数も表示されます。
- **クイックリスト**：クイックリストを表示します。
  ➡ ボタンを押すとムービーオプションメニューが表示されます。ムービーオプションメニューから動画ファイルを再生できます。また、クイックリストから動画ファイルを削除できます。
- **フォルダー**：フォルダーごとに表示します。フォルダーを選んで**決定ボタン**を押すと、動画ファイル (または下層のフォルダー) が表示されます。

動画ファイルを検索する (サーチ)

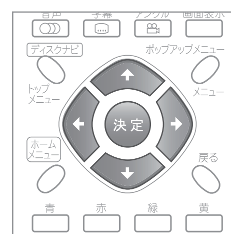
タイトル名、またはジャンル名で検索します。

1 [サーチ] を選んで決定する



2 タイトル名、またはジャンル名を入力する

- **⬆/⬇/⬅/➡ ボタン**で文字を選んで、**決定ボタン**で確定します。
- 最大 20 文字まで入力できます。



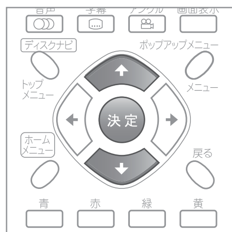


- SHFT：大文字と小文字を切り換えます。
- SPC: 空白を入力します。
- DEL：選んでいる文字を消去します。
- CLR：入力した文字をすべて消去します。
- **確定**：検索を終了します。検索結果からタイトルまたはジャンルを選びます。
- **取消**：検索を終了します。検索結果は消去されます。

ネットワーク上の機器を表示する

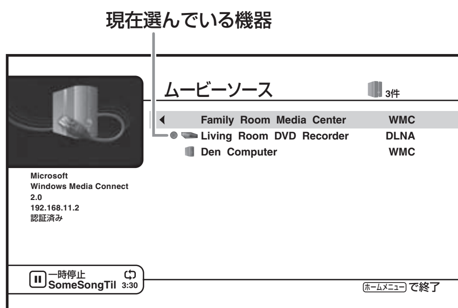
ネットワーク上のすべての機器を一覧で表示できます。また、再生したい動画ファイルが保存されている機器を変更できます。

1 ムービーソース画面を表示する



2 機器を選んで決定ボタンを押す

現在選んでいる機器



画像ファイルを再生する（フォトナビゲーター）

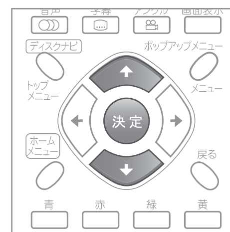
ネットワーク上の機器に保存されている画像ファイルを再生できます。保存されている画像ファイルを一覧で表示して、再生や検索などができます (フォトナビゲーター)。

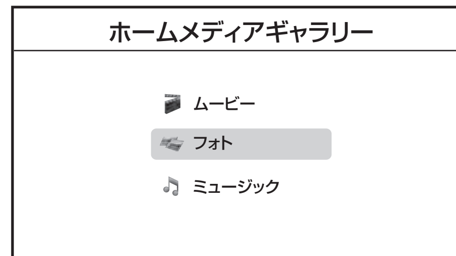
1 ホームメディアギャラリーを表示する



ホームメニューから [ホームメディアギャラリー] を選んで**決定ボタン**を押しても表示できます。

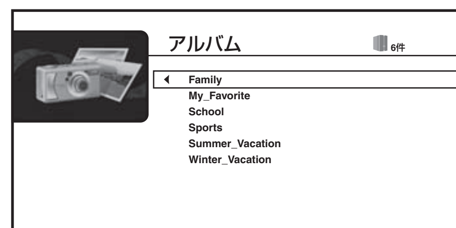
2 [フォト] を選んで決定する



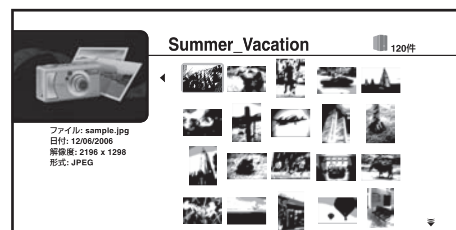


選んだ機器に保存されているすべてのアルバムが一覧で表示されます。

3 アルバムを選んで決定する



4 再生したい画像ファイルを選んで決定する



フォトオプションメニューが表示されます。[スライドショー] を選んで**決定ボタン**を押すとスライドショーが始まります。

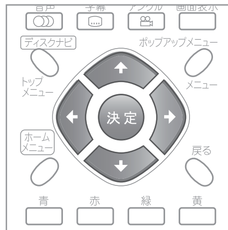
ホームメディアギャラリーを終了するには

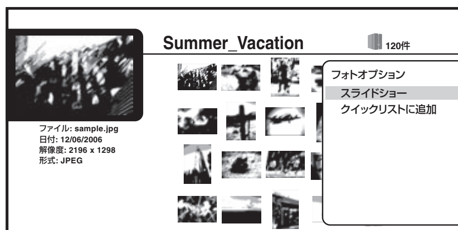
- **ホームメディアギャラリーボタン** (または**ホームメニューボタン**) を押します。

フォトオプションメニューを表示する

1 ファイルを選んで決定する

フォトオプションメニューが表示されます。





- **スライドショー**：選んだ画像ファイルからスライドショー再生を始めます。⏮/⏭ **ボタン**で前後の画像ファイルを表示できます。また、画像ファイルを拡大して表示できます。☛ **24 ページ**
- **クイックリストに追加**：選んだ画像ファイルをクイックリストに追加します。

クイックリストとは

- 再生する回数が多い画像ファイルを一覧で表示できます。
- 最大 25 ファイルまでリストに追加できます。

お知らせ

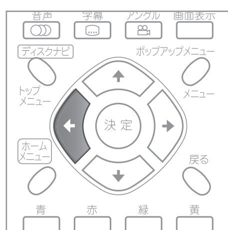
下記のときクイックリストは消去されます。

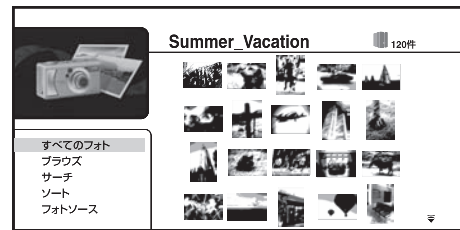
- フォトナビゲーターを終了したとき
- ネットワークの接続を変更したとき (フォトソース画面で機器を変更したとき)
- 電源をオフにしたとき

ブラウズメニューを表示する

1 ブラウズメニューを表示する

一番左の列にカーソルがあるときに ⬅ **ボタン**を押します。



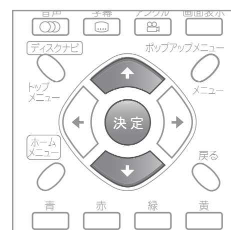


- **すべてのフォト**：記録されているすべての画像ファイルを表示します。
- **ブラウズ**：画像ファイルの表示方法を切り換えます。
- **サーチ**：ファイル名で画像ファイルを検索します。文字の入力方法については「動画ファイルを検索する (サーチ)」をご覧ください。☛ **35 ページ**
- **ソート**：画像ファイルを日付、またはアルファベット順に並べ替えます。
- **フォトソース**：ネットワーク上の機器を表示します。機器の表示 / 変更方法については「ネットワーク上の機器を表示する」をご覧ください。☛ **36 ページ**

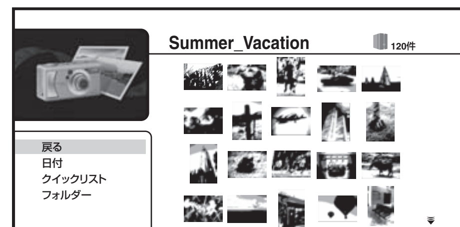
画像ファイルの表示方法を切り換える (ブラウズ)

アルバム、日付、クイックリスト、またはフォルダーごとに表示できます。

1 [ブラウズ] を選んで決定する



2 表示方法を切り換える



- **戻る**：前の画面に戻ります。
- **アルバム**：アルバム内の画像ファイルを表示します。
- **日付**：年、または月ごとに表示します。
- **クイックリスト**：クイックリストを表示します。ファイルを選んで**決定ボタン**を押すと、フォトオプションメニューが表示されます。フォトオプションメニューからスライドショーを再生できます。また、クイックリストから画像ファイルを削除できます。
- **フォルダー**：フォルダーごとに表示します。フォルダーを選んで**決定ボタン**を押すと、画像ファイル (または下層のフォルダー) が表示されます。

音楽ファイルを再生する（ミュージックナビゲーター）

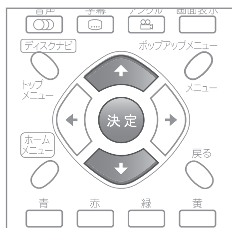
ネットワーク上の機器に保存されている音楽ファイルを再生できます。保存されている音楽ファイルを一覧で表示して、再生や検索などができます（ミュージックナビゲーター）。

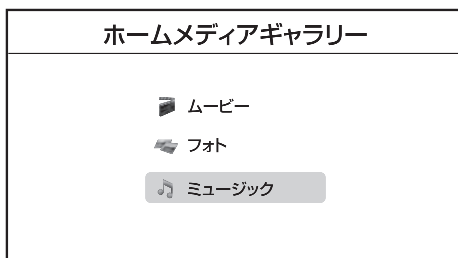
1 ホームメディアギャラリーを表示する



ホームメニューから［ホームメディアギャラリー］を選んで**決定ボタン**を押しても表示できます。

2 ［ミュージック］を選んで決定する





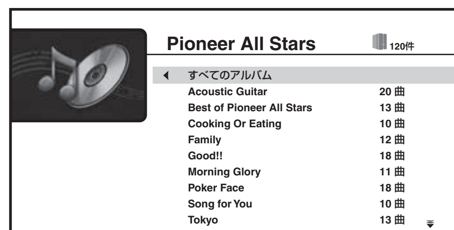
アーティスト名が一覧で表示されます。

3 ［アーティスト］を選んで決定する



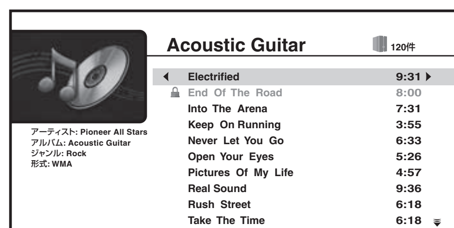
選んだアーティストのアルバム名が表示されます。

4 ［アルバム］を選んで決定する

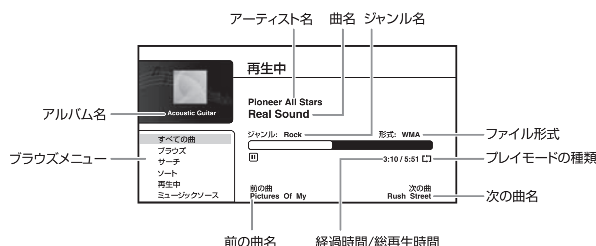


- アルバムに収録されている音楽ファイルが一覧で表示されます。
- 再生時間が取得できない音楽ファイルの時間は「－：－－」と表示されます。
- 左側に選んだ音楽ファイルの情報が表示されます。

5 再生したい音楽ファイルを選んで決定する



- 再生が始まって、再生中画面（下記）が表示されます。

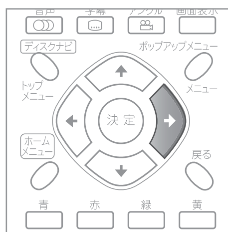


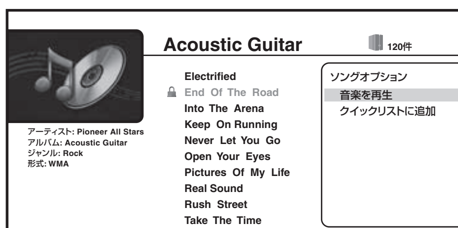
ホームメディアギャラリーを終了するには

- **ホームメディアギャラリーボタン**（または**ホームメニューボタン**）を押します。

ソングオプションメニューを表示する

1 ソングオプションメニューを表示する





- **音楽を再生**：選んだ音楽ファイルを始めから再生します。
- **クイックリストに追加**：選んだ音楽ファイルをクイックリストに追加します。

クイックリストとは

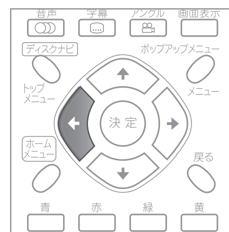
- 再生する回数が多い音楽ファイルを一覧で表示できます。
- 最大 25 ファイルまでリストに追加できます。

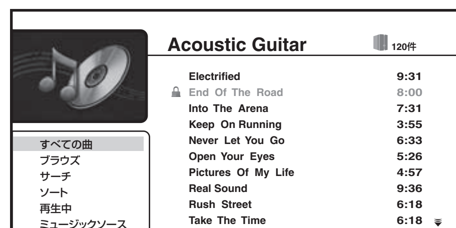
お知らせ

下記のときクイックリストは消去されます。
- ミュージックナビゲーターを終了したとき
- ネットワークの接続を変更したとき (ミュージックソース画面で機器を変更したとき)
- 電源をオフにしたとき

ブラウズメニューを表示する

1 ブラウズメニューを表示する



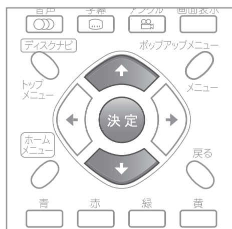


- **すべての曲**：保存されているすべての音楽ファイルを表示します。
- **ブラウズ**：音楽ファイルの表示方法を切り換えます。
- **サーチ**：トラック名、アーティスト名、アルバム名、またはジャンル名で音楽ファイルを検索します。文字の入力方法については「動画ファイルを検索する (サーチ)」をご覧ください。☛ **35 ページ**
- **ソート**：音楽ファイルを日付、またはアルファベット順に並べ替えます。
- **再生中**：現在再生している音楽ファイルの情報を表示します。
- **ミュージックソース**：ネットワーク上の機器を表示します。機器の表示 / 変更方法については「ネットワーク上の機器を表示する」をご覧ください。☛ **36 ページ**

音楽ファイルの表示方法を切り換える (ブラウズ)

アーティスト、アルバム、ジャンル、プレイリスト、クイックリスト、またはフォルダーごとに表示できます。

1 [ブラウズ] を選んで決定する



2 表示方法を切り換える



- **戻る**：前の画面に戻ります。
- **アーティスト**:アーティストごとに表示します。アーティストを選んで**決定ボタン**を押すとアルバムが表示されます。
- **アルバム**：アルバムごとに表示します。アルバムを選んで**決定ボタン**を押すと曲が表示されます。
- **ジャンル**：ジャンルごとに表示します。ジャンルを選んで**決定ボタン**を押すとアーティストが表示されます。
- **プレイリスト**：プレイリストを表示します。
- **クイックリスト**：クイックリストを表示します。
  ➡ ボタンを押すとソングオプションが表示されます。ソングオプションから音楽ファイルを再生できます。また、クイックリストから音楽ファイルを削除できます。
- **フォルダー**：フォルダーごとに表示します。フォルダーを選んで**決定ボタン**を押すと音楽ファイル (または下層のフォルダー) が表示されます。

最初に表示される画面について

◆ 本機の電源をオンにして、ムービーナビゲーター、フォトナビゲーター、またはミュージックナビゲーターを最初に表示したとき、フォルダー選択画面が表示されることがあります。これは、本機がメディアサーバーに保存されているファイルの情報を取得しているためです。

お使いのサーバーによってフォルダー選択画面に表示される項目が異なります。⬆/⬇ でカーソルを移動して、**決定ボタン**で項目を選びます。➡ でオプションメニューを表示してファイルを再生してください ☛ **34、37、39 ページ**。

このとき，ブラウズメニューの [すべてのムービー]、[すべてのフォト]、[すべての曲] は選べません。サーバー上のすべてのファイルの情報を取得すると選べます。

最初にフォルダー選択画面が表示されないときは、すでに本機がサーバー上のファイルの情報を取得しています。このときは、取扱説明書に記載されている方法で操作できます。

サーバー上のファイルの情報が変更されたとき

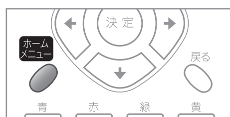
◆ ホームメディアギャラリーを表示しているときにサーバー上のファイルを追加、または削除すると、フォルダー選択画面に切り換わることがあります。

このときは、「 最初に表示される画面について 」に記載されている方法でフォルダー選択画面を操作してください。再度本機がサーバー上のファイルの情報を取得したときは取扱説明書に記載されている方法で操作できます。

画質を調整する

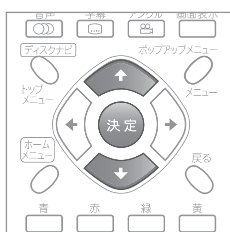
お使いのテレビに合わせて、再生する映像の画質を調整できます。

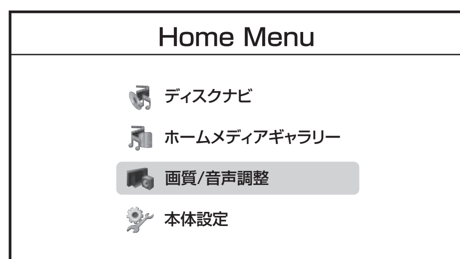
1 再生中にホームメニューを表示する



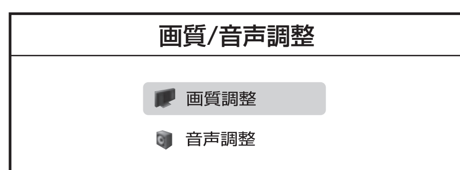
リモコンの**画質調整ボタン**を押しても画質調整画面を表示できます。

2 [画質 / 音声調整] を選んで決定する





3 [画質調整] を選んで決定する

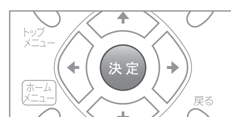


4 画質を選ぶ



- **標準**：お買い上げ時の設定です。
- **シネマ**：映画を見るときに最適です。
- **メモリー 1 ～ 3**：項目ごとに調整した画質を記憶できます。設定項目の内容は下記をご覧ください。

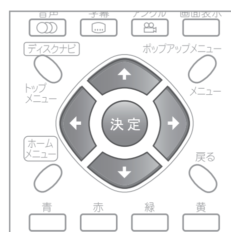
5 変更を確定する



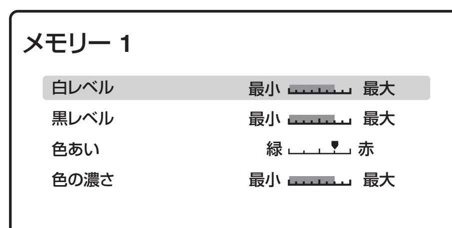
メモリー 1、2、3 を選んだとき

1 [詳細設定] を選んで決定する

2 画質を調整する



⬆/⬇ で項目を選んで ⬅/➡ で項目を調整します。



決定ボタンを押すと画質を確認しながら調整できます。再度押すと詳細設定画面に戻ります。



- **白レベル**：白色のレベルを調整します。
- **黒レベル**：黒色のレベルを調整します。
- **色あい**：緑色と赤色のバランスを調整します。
- **色の濃さ**：色の濃さを調整します。

お知らせ

・[シネマ]、および [メモリー 1 ～ 3] のすべての設定値は、HDMI 出力端子、およびコンポーネント映像出力端子から出力される映像にのみ有効です（映像出力端子、および S 映像出力端子から出力される映像には無効です）。

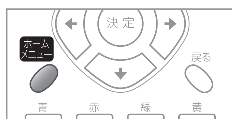
画質調整画面を終了するには

- **ホームメニューボタン**を押します。

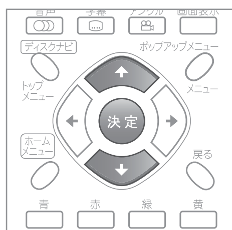
音声を調整する（オーディオ DRC）

オーディオ DRC（ダイナミックレンジコントロール）には、大きい音を小さく、小さい音を大きくして再生する効果があります。たとえば、映画のセリフなどが聞きづらいときや深夜に映画を見るときなどに設定を調整します。

1 再生中にホームメニューを表示する

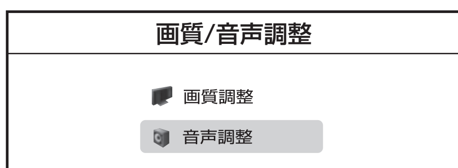


2 [画質 / 音声調整] を選んで決定する

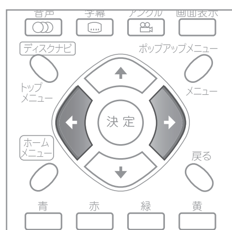




3 [音声調整] を選んで決定する

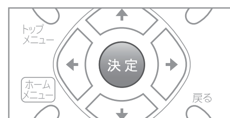


4 設定を調整する





5 変更を確定する



音声調整画面を終了するには

● **ホームメニューボタン**を押します。

お知らせ

- BD、DVD、または動画ファイルのドルビーデジタル音声にのみ効果があります。
- オーディオ DRC は下記の音声に効果があります。
  - 音声出力 (2 ch) 端子、または音声出力 (5.1 ch) 端子から出力されるアナログ音声
  - デジタル音声出力端子、または HDMI 出力端子から出力されるリニア PCM 音声
- ディスクによって効果が小さいことがあります。

設定を変更する（本体設定）

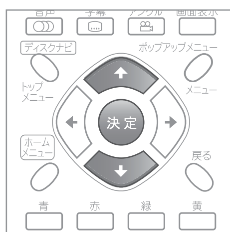
本体設定画面を操作する

1 停止中にホームメニューを表示する

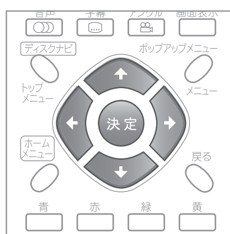




2 [本体設定] を選んで決定する



3 項目を選んで設定を変更する



本体設定画面を終了する

● **ホームメニューボタン**を押します。

お知らせ

・ 変更できない項目は灰色で表示されます。また、本機の状態によって選べる項目が異なります。

お知らせ

- **太字**はお買い上げ時の設定です。

映像出力	**テレビの縦横比**	4:3	従来サイズ (4:3) のテレビと接続しているときに選びます。
		16:9(ワイドテレビ)	ワイド (16:9) テレビと接続しているときに選びます
	4:3 映像出力	フル	HDMI 対応のテレビなどと接続しているときに選びます。
		ノーマル	テレビ側で縦横比を 4:3 に切り換えられないときに選びます。
	DVD16:9 映像出力	**レターボックス**	テレビ画面の上下に黒い帯を入れて、16:9 の映像を 4:3 の画面で見るときに選びます。
		パンスキャン	16:9 の映像の左右をカットして、4:3 の画面全体に映像を映して見るときに選びます。
	HDMI カラースペース	**YCbCr**	HDMI 対応のテレビと接続しているときに選びます。色差 (8 bit) フォーマットで伝送されます。
		RGB (16-235)	RGB (0-255) に設定すると、色が濃くなります。黒が沈んで見えるときに選びます。
		RGB (0-255)	RGB(16-235) に設定すると、色が薄くなります。黒が浮いて見えるときに選びます。
	RGB 映像信号の入力に対応していないテレビのときは [YCbCr] に設定してください。DVI 対応テレビと接続しているときは [RGB (0-255)] に設定してください。正しく映らないときは [RGB (16-235)] に設定してください。		
	24p Direct 出力	オン	フィルム素材の BD を再生するときに選びます。1080/24p 対応のテレビと HDMI ケーブルを使って接続しているときのみ有効です。
		オフ	ビデオ素材とフィルム素材の映像信号の切り換わりで映像が不自然に映るときに選びます。 「解像度を切り換える」もあわせてご覧ください。☛ **21 ページ**
	S 映像出力	S1	S ビデオケーブルを使ってテレビと接続しているとき、映像が横に引き伸ばされて見えるときに選びます。
		S2	S ビデオケーブルを使ってテレビと接続しているときに選びます。
音声出力	**Dolby Digital 出力** ※デジタル音声出力にのみ有効です。	**Dolby Digital**	接続した AV アンプなどがドルビーデジタルに対応しているときに選びます。ドルビーデジタル音声を出力します。
		Dolby Digital → PCM	接続した AV アンプなどがドルビーデジタル音声に対応していないときに選びます。ドルビーデジタル音声をリニア PCM 音声に変換して出力します。
	DTS 出力 ※デジタル音声出力にのみ有効です。	**DTS**	接続した AV アンプなどが DTS 音声に対応しているときに選びます。DTS 音声を出力します。
		DTS → PCM	接続した AV アンプなどが DTS 音声に対応していないときに選びます。DTS 音声をリニア PCM 音声に変換して出力します。
	DTS ダウンミックス	**ステレオ**	DTS 出力を DTS → PCM に設定しているとき、DTS 音声を 2 チャンネル(ステレオ)音声に変換して出力します。
		Lt/Rt	DTS 音声をドルビーサラウンド対応の2チャンネル音声に変換します (接続した AV アンプなどがドルビープロロジック対応のときはサラウンド音声で出力します)。
	HDMI 音声出力	**自動**	ドルビー TrueHD、ドルビーデジタル Plus、DTS-HD High Resolution Audio、ドルビーデジタル、または DTS 音声をビットストリームで出力します。ただし、ドルビー TrueHD またはドルビーデジタル Plus 音声に対応していない HDMI 機器と接続しているときは、ドルビーデジタル音声で出力します。DTS-HD High Resolution Audio 音声に対応していない HDMI 機器と接続しているときは、DTS 音声で出力します。 接続している HDMI 機器が上記の音声に対応していないときは、リニア PCM 音声に変換して出力します。☛ **50 ページ**
		PCM	すべての音声をリニア PCM 音声に変換して出力します。AV アンプがリニア PCM のマルチチャンネル入力に対応しているときは、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタル Plus、および DTS-HD High Resolution Audio 音声を最大 7.1ch のリニア PCM 音声で出力できます。☛ **50 ページ**
言語	**音声言語** ※ディスクによっては選んだ言語に変更されないことがあります。	**日本語**	BD、または DVD の音声を日本語で聞くときに選びます。
		英語	BD、または DVD の音声を英語で聞くときに選びます。
		その他	136 言語の中から任意の言語を選びます。「言語コード表」☛ **58 ページ**を見ながら操作します。BD、または DVD に収録されていない言語を設定したときは、収録されているいずれかの言語でメニュー画面が表示されます。
	字幕言語 ※ディスクによっては選んだ言語に変更されないことがあります。	**日本語**	BD、または DVD の字幕を日本語で表示するときに選びます。
		英語	BD、または DVD の字幕を英語で表示するときに選びます。
		その他	136 言語の中から任意の言語を選びます。「言語コード表」☛ **58 ページ**を見ながら操作します。BD、または DVD に収録されていない言語を設定したときは、収録されているいずれかの言語でメニュー画面が表示されます。

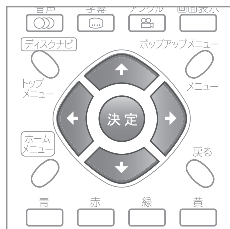
言語	**BD/DVD メニュー言語** ※ディスクによっては選んだ言語に変更されないことがあります。	**字幕言語に連動**	BD、または DVD のメニュー画面を字幕言語で選んでいる言語で表示するときに選びます。
		日本語	BD、または DVD のメニュー画面を日本語で表示するときに選びます。
		英語	BD、または DVD のメニュー画面を英語で表示するときに選びます。
		その他	136 言語の中から任意の言語を選びます。「言語コード表」☛ **58 ページ**を見ながら操作します。BD、または DVD に収録されていない言語を設定したときは、収録されているいずれかの言語でメニュー画面が表示されます。
	字幕表示	**オン**	字幕を表示するときに選びます。
		オフ	字幕を表示しないときに選びます。ただし、字幕を強制的に表示するディスクもあります。
視聴制限	**暗証番号登録 (暗証番号変更)**	視聴が制限されているディスクを再生するために必要な暗証番号を登録 (変更) します。詳しくは「暗証番号を登録 (変更) する」をご覧ください。☛ **46 ページ**	
	DVD 視聴制限	レベル変更	本機の視聴制限のレベルを変更します。詳しくは「レベルを変更する」をご覧ください。☛ **47 ページ**
		DVD 国コード設定	国 / 地域を変更します。「国 / 地域コード表」☛ **58 ページ**を見ながら操作します。
	BD 視聴制限	制限年齢変更	制限年齢を変更します。255 と表示されたときは年齢制限が適用されません。
		BD 国コード設定	国 / 地域を変更します。「国 / 地域コード表」☛ **58 ページ**を見ながら操作します。
ネットワーク	**IP アドレス設定**	IP アドレスを設定します。詳しくは「ネットワークの設定をする」をご覧ください。☛ **19 ページ**	
	デバイス名	本機がネットワーク上の機器に表示されるときの名前を変更します。詳しくは「ネットワークの設定をする」をご覧ください。☛ **19 ページ**	
	ネットワーク情報表示	ネットワークの設定を一覧で表示します。詳しくは「ネットワークの設定をする」をご覧ください。☛ **19 ページ**	
スピーカー	**音声出力モード**	**2 チャンネル**	テレビのアナログ 2ch(ステレオ) 音声入力端子と本機の音声出力 (2ch) 端子を接続したときに選びます。
		5.1 チャンネル	AV アンプなどのアナログ 5.1ch 音声入力端子と本機の音声出力 (5.1ch) 端子と接続したときに選びます。
	スピーカー設定	接続したスピーカーの大きさ、およびあり / なしを設定します。詳しくは「スピーカーの設定を変更する (スピーカー設定)」をご覧ください。☛ **46 ページ**	
オプション	**画面表示**	**オン**	テレビ画面に操作表示 (再生、停止など) を表示するときに選びます。
		オフ	テレビ画面に操作表示 (再生、停止など) を表示しないときに選びます。
	オートパワーオフ	**オン**	自動で電源をオフにするときに選びます (30 分以上何も操作しないと自動で電源がオフになります)。
		オフ	自動で電源をオフにしないときに選びます。
	セットアップナビ	開始	セットアップナビを使って設定を開始します。詳しくは「セットアップナビを使って設定する」をご覧ください。☛ **18 ページ**
	ハイブリッドディスク再生層設定 ※ディスクテーブルにディスクがセットされているときは変更できません。	**BD**	二層以上のハイブリット (BD と DVD、または CD) ディスクの BD 層を再生します。
		DVD	二層以上のハイブリット (BD と DVD) ディスクの DVD 層を再生します。DVD 層がないときは BD 層を再生します。
		CD	二層以上のハイブリット (BD と CD) ディスクの CD 層を再生します。CD 層がないときは BD 層を再生します。
	HDMI コントロール	**オン**	HDMI ケーブルを使って接続している AV 機器のリモコンで本機を操作するときに選びます。「HDMI コントロール機能について」もあわせてご覧ください。☛ **15 ページ**
		オフ	HDMI ケーブルを使って接続している AV 機器のリモコンで本機を操作しないときに選びます。
	ソフトウェア更新	開始	インターネットに接続して最新のソフトウェアに更新できます。詳しくは「ソフトウェアを更新する」をご覧ください。☛ **51 ページ**

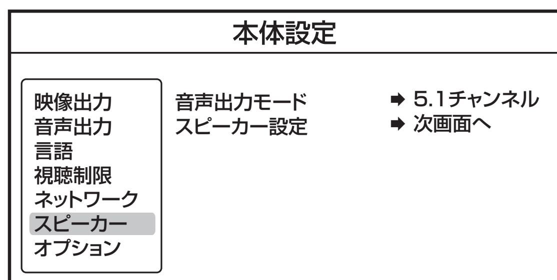
スピーカーの設定を変更する (スピーカー設定)

お知らせ

・ はじめにホームメニューから [本体設定] を選んで**決定ボタン**を押します。

1 [スピーカー] を選んで決定する



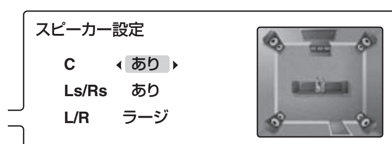


2 [スピーカー設定] → [次画面へ] を選んで決定する

ご注意

・ [音声出力モード] が [2 チャンネル] に設定されているときは選べません。[5.1 チャンネル] に変更してください。
☛ **45 ページ**

3 スピーカーを選んで設定を変更する



● C(センタースピーカー) : **あり / なし**

● Ls/Rs(サラウンドスピーカー左 / 右) : **あり / なし**

● L/R (フロントスピーカー左 / 右) : **スモール / ラージ**(センター、およびサラウンドスピーカーを [あり] に設定したときのみ有効です。)

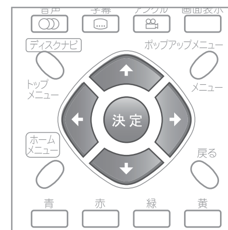
スピーカー設定画面を終了するには

● **決定ボタン**を押します。

暗証番号を登録 (変更) する

暴力シーンなどを含む BD、または DVD には視聴制限のレベルを設けたディスクがあります (ディスクのジャケットなどの表示で確認できます)。本機のレベルをディスクよりも小さく設定しておくと、これらのディスクの視聴を制限できます。

1 [視聴制限] を選んで決定する



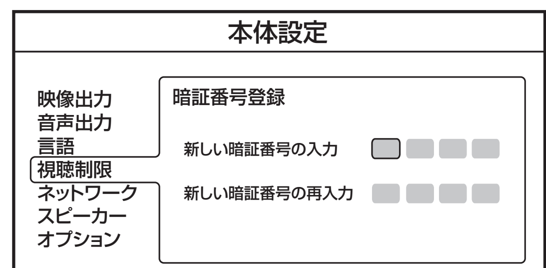


2 [暗証番号登録] → [次画面へ] を選んで決定する

3 暗証番号を入力する

数字 (0 ~ 9) ボタンで番号を入力して、**決定ボタン**で確定します。





暗証番号を変更するときは

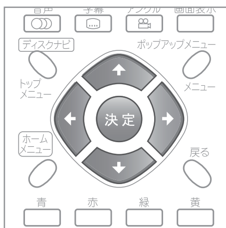
● すでに登録している暗証番号を入力してから新しい暗証番号を入力します。

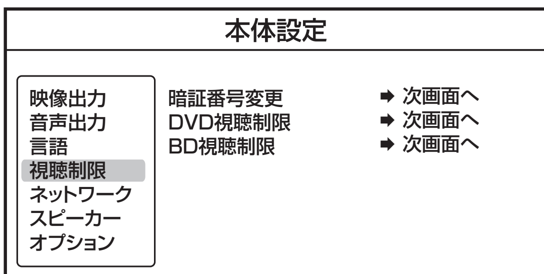
お知らせ

- 暗証番号はメモしておくことをお勧めします。
- 暗証番号を忘れてしまったときは、本機の設定をお買い上げ時の設定に戻してから再度暗証番号を登録してください。
  ☛ 46 ページ
- ディスクによっては視聴制限されている場面を飛ばして再生することがあります。詳しくはディスクジャケットなどをご覧ください。
- 再生中に暗証番号を入力する画面が表示されるディスクがあります。再生を続けるときは暗証番号を入力してください。

視聴するときの年齢制限を変更する

1 [視聴制限] を選んで決定する



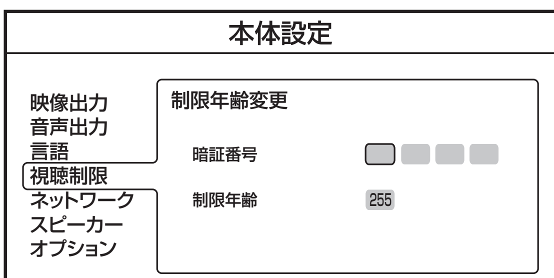


2 [BD 視聴制限] → [制限年齢変更] を選んで決定する

3 暗証番号を入力する

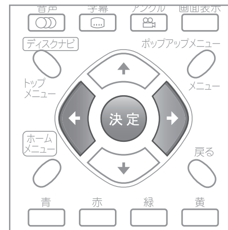
数字 (0 ～ 9) ボタンで番号を入力して、**決定ボタン**で確定します。





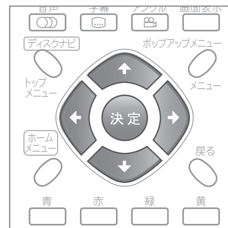
4 年齢を変更する

⬅/➡ で年齢を変更して、**決定ボタン**で確定します。



レベルを変更する

1 [視聴制限] を選んで決定する



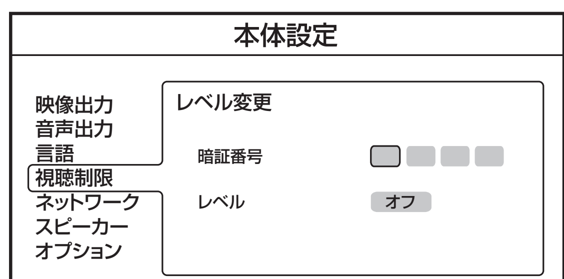


2 [DVD 視聴制限] → [レベル変更] を選んで決定する

3 暗証番号を入力する

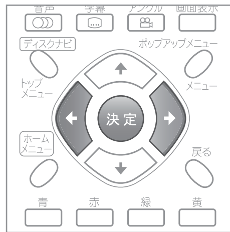
数字 (0 ～ 9) ボタンで番号を入力して、**決定ボタン**で確定します。





4 レベルを変更する

⬅/➡ でレベルを変更して、**決定ボタン**で確定します。

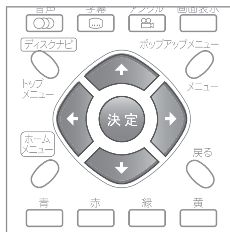


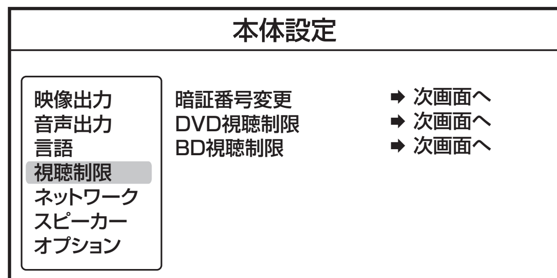
BD の国 / 地域コードを変更する

お知らせ

- 「国 / 地域コード表」 ☛ **58 ページ**を見ながら操作します。

1 [視聴制限] を選んで決定する





2 [BD 視聴制限] → [BD 国コード設定] を選んで決定する

3 暗証番号を入力する

数字 (0 ~ 9) ボタンで番号を入力して、**決定ボタン**で確定します。



本体設定

映像出力
音声出力
言語
視聴制限
ネット ワーク
スピーカー
オプション

BD国コード設定

暗証番号

コード jp

番号 1 0 1 6

4 国コードを変更する

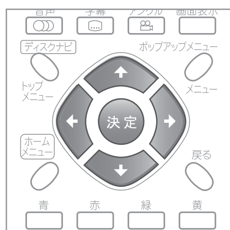
⬅/➡ で国コードを変更して、**決定ボタン**で確定します。

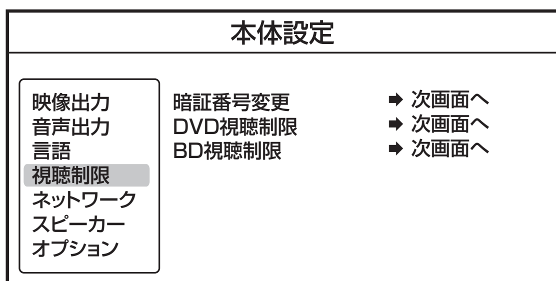
DVD の国 / 地域コードを変更する

お知らせ

・「国 / 地域コード表」☛ **58 ページ**を見ながら操作します。

1 [視聴制限] を選んで決定する





2 [DVD 視聴制限] → [DVD 国コード設定] を選んで決定する

3 暗証番号を入力する

数字 (0 ～ 9) ボタンで番号を入力して、**決定ボタン**で確定します。





4 国コードを変更する

⬅/➡ で国コードを変更して、**決定ボタン**で確定します。

音声出力端子から出力される音声について

音声の種類		音声出力端子		デジタル音声出力端子		HDMI 出力端子※1	
		2ch※2	5.1ch※2	リニア PCM 音声に変換する※3	リニア PCM 音声に変換しない※4, 5	PCM※6	自動※5, 6, 7
BD	ドルビーデジタル	2ch 音声に変換	5.1ch 音声	2ch 音声に変換	ドルビーデジタル	5.1ch 音声	ドルビーデジタル
	ドルビーデジタル Plus※8				ドルビーデジタル	7.1ch 音声※9,	ドルビーデジタル Plus
	ドルビー TrueHD※8				ドルビーデジタル	7.1ch 音声※9, 10, 11, 12, 13	ドルビー TrueHD※14
	DTS				DTS	5.1ch 音声※10, 15, 16	DTS
	DTS-HD High Resolution Audio※8				DTS	7.1ch 音声※9, 10, 12, 15	DTS-HD High Resolution Audio
	DTS-HD Master Audio※17				DTS	5.1ch 音声※10, 15, 16	DTS
	リニア PCM		5.1ch 音声に変換※11		2ch 音声に変換	7.1ch 音声※10, 11, 15	7.1ch 音声
DVD	ドルビーデジタル	2ch 音声に変換	5.1ch 音声	2ch 音声に変換	ドルビーデジタル	5.1ch 音声	ドルビーデジタル
	DTS				DTS		DTS
	MPEG	2ch 音声					
	リニア PCM						

※1 リニア PCM 音声を出力しているとき、接続している HDMI 機器の対応しているチャンネル数が少ないときは、機器に対応したチャンネル数が出力されます。

※2 [音声出力モード] が [2 チャンネル]、または [5.1 チャンネル] に設定されているとき。☛ **45 ページ**

※3 [Dolby Digital 出力] が [Dolby Digital → PCM]、または [DTS 出力] が [DTS → PCM] に設定されているとき。☛ **44 ページ**

※4 [Dolby Digital 出力] が [Dolby Digital]、または [DTS 出力] が [DTS] に設定されているとき。☛ **44 ページ**

※5 ドルビーデジタル、ドルビーデジタル Plus、ドルビー TrueHD、DTS-HD High Resolution Audio、または DTS をビットストリームで出力しているとき、インタラクティブオーディオは出力されません。

※6 [HDMI 音声出力] が [PCM]、または [自動] に設定されているとき。☛ **44 ページ**

※7 接続している HDMI 機器がドルビーデジタル Plus、またはドルビー TrueHD のビットストリームに対応していないときは、ドルビーデジタルのビットストリームで出力されます。
接続している HDMI 機器が DTS-HD High Resolution Audio に対応していないときは、DTS のビットストリームで出力されます。
接続している HDMI 機器がドルビーデジタル、または DTS のビットストリームに対応していないときは、PCM で出力されます。

※8 音声出力端子、およびデジタル音声出力端子ではドルビーデジタル、および DTS の音声が出力されます。

※9 6.1ch または 7.1ch のサラウンドバックにのみ対応しています。それ以外は、5.1ch 以下の音声で出力されます。
6.1ch のサラウンドバックは 7.1ch で出力されます。

※10 96 kHz または 192 kHz の音声を出力しているときは、インタラクティブオーディオは出力されません。

※11 192 kHz の音声は 2ch 音声に変換して出力されます。

※12 96 kHz の音声は、映像出力解像度を 720p、1080i、または 1080p に設定すると、最大 5.1ch で出力されます。

※13 96 kHz の音声は、映像出力解像度を 480i または 480p に設定すると、2ch で出力されます。

※14 映像出力解像度を 480i または 480p に設定すると、ドルビーデジタルのビットストリームで出力されます。

※15 96 kHz の音声は、映像出力解像度を 480i または 480p に設定すると、48 kHz で出力されます。

※16 DTS-ES 6.1ch ディスクリートは、7.1ch で出力されます。

※17 DTS 音声で出力されます。

ご注意

- デジタル音声出力端子から出力される音声は 48 kHz(CD は 44.1 kHz) です。
- MPEG 音声は必ずリニア PCM 音声で出力されます。

ソフトウェアを更新する

LAN ケーブルでインターネットに接続して、本機のソフトウェアを更新します。

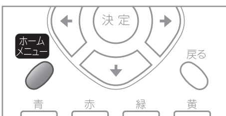
ご注意

- ソフトウェアの更新にはインターネットの接続状況により時間がかかります (別途ソフトウェアの取り込みにも時間がかかります)。また、ソフトウェアの更新中は他の操作ができません。
- 更新中は自動でディスクテーブルが開きます。本機を扉付きラックに設置しているときは、あらかじめ扉を開けておいてください。また、ディスクテーブルが開いているときは、絶対に押し込まないでください (ディスクテーブルは開いたままにしておいてください)。
- 更新中は電源プラグを抜かないでください。更新が中止され、誤動作することがあります。

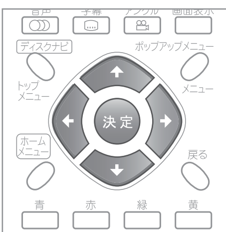
お知らせ

- 1 、2 はお客様の操作です (ソフトウェアをインターネット経由で取り込む操作です)。
- 3 ～ 5 は本体の動作 (自動) 説明です (ソフトウェアを更新する動作です)。
- 6 はお客様の操作です。

1 ホームメニューを表示する



2 [本体設定] → [オプション] → [ソフトウェア更新] → [開始] → [はい] を選んで決定する



- 電源が自動でオフになります。
- すでに最新のソフトウェアで動作しているときは、ヘルプメッセージが表示されます。
- ソフトウェアの更新にはインターネットの接続状況により時間がかかります (別途ソフトウェアの取り込みにも時間がかかります)。また、ソフトウェアの更新中は他の操作ができません。

3 ソフトウェアの取り込みおよび更新が始まります

- 本体表示窓に下記のように表示され、本体から動作音がします (映像と音声は出力されません)。

“POWER ON”
↓
“NET”
↓
“NET-DWLD”
↓
“DOWNLOAD”

- 本体表示窓には [DATA CHECK]、[WRT FLASH1]、[WRT DRIVE]、[WRT SUBCON] などと表示されます。
- 更新中は電源プラグを抜かないでください。

4 更新中は自動でディスクテーブルが開きます

- ディスクテーブルが開いているときは、絶対に押し込まないでください (ディスクテーブルは開いたままにしておいてください)。

5 更新が終了します

- 本体表示窓に [DL OK] と表示され電源がオフになります。

6 正しく更新されているか確認する

本機の電源をオンにして本体表示窓に [DL OK] と表示されていれば、正しく更新されています。

すべての設定をお買い上げ時の状態に戻す

1 本機の電源がオンになっていることを確認する

2 ディスクを再生しているときは ■ STOP を押して再生を停止する

3 ■ STOP を押しながら ⏻ STANDBY/ON を押す

本体前面部のボタンで操作します。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら下記の項目を確認してください。また、本機と接続している機器 (テレビなど) もあわせて確認してください。
それでも正常に動作しないときは『保証とアフターサービス』☛ **65 ページ**をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

再生

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
● ディスクが再生できない。 ● ディスクテーブルが自動で開く。	ディスクに傷がついていませんか。	傷がついているディスクは再生できないことがあります。
	ディスクが汚れていませんか。	ディスクをクリーニングしてください。☛ **61 ページ**
	ディスクがディスクテーブルに正しくセットされていますか。	• 印刷面を上にセットしてください。 • ディスクテーブルの枠内に正しくセットしてください。
	リージョンナンバーは正しいですか。	本機で再生できるディスクのリージョンナンバーは下記のとおりです。☛ **7 ページ** • BD：「A(または A を含む)」または「ALL」 • DVD：「2(または 2 を含む)」または「ALL」
	湿気の多い場所に設置していませんか。	内部が結露している可能性があります。結露が消えるまでお待ちください。なお、エアコンなどの近くに設置しないでください。☛ **60 ページ**
● テレビ画面が止まって、操作できない。		• **■ (停止) ボタン**を押して再生を停止してから再度再生してください。 • 停止できないときは本体前面部の ⏻ **STANDBY/ON ボタン**を押して電源をオフにしてから再度電源をオンにしてください。 • 電源をオフにできないときは本体前面部の ⏻ **STANDBY/ON ボタン**を 10 秒以上押し続けると電源がオフになります。
● 映像が映らない。	映像ケーブルが正しく接続されていますか。	ケーブルを奥までしっかり差し込んでください。
	映像ケーブルが断線していませんか。	断線していたときは新しいケーブルと交換してください。
	接続しているテレビ、または AV アンプの入力は正しいですか。	接続している機器の取扱説明書をご覧になり、正しい入力に切り換えてください。
		HDMI ケーブルで接続したときのみ映像を出力する BD があります。
● 映像がきれいに映らない。		テレビによっては、本機の解像度の設定によってきれいに映らないことがあります。**解像度切換ボタン**できれいに映る解像度に切り換えてください。☛ **21 ページ**
● 映像が伸びている。 ● 縦横比が切り換えられない。	テレビ縦横比は正しく設定されていますか。	テレビの取扱説明書をご覧になり、テレビの縦横比を正しく設定してください。
	[4:3 映像出力] は正しく設定されていますか。	• [4:3 映像出力] を正しく設定してください。☛ **44 ページ** • 本機の解像度が [720p]、[1080i]、[1080p] に設定されているときは、テレビの縦横比が 4:3 に設定されていても映像がワイド (16:9) で出力されます。
● 再生中に映像が乱れる。 ● 映像が暗い。		• 本機はマクロビジョンのコピープロテクトに対応しています。テレビによってはコピー禁止信号が記録されているディスクを再生したときに正しく映らないことがあります。これは故障ではありません。 • ビデオデッキなどを経由して本機とテレビを接続したときは、本機のアナログコピープロテクトによって映像が正しく映りません。本機とテレビは直接接続してください。

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
● 音声が出ない。 ● 音声が乱れている。	• スロー再生していませんか。 • 早送り / 早戻ししていませんか。	スロー再生中、または早送り / 早戻し中は音声が出力されません。
	接続している機器 (AV アンプなど) は正しく設定されていますか。	接続している機器の取扱説明書をご覧になり、音量、入力、およびスピーカーの設定などを確認してください。
	ディスクに傷がついていませんか。	傷がついているディスクは音声が出ないことがあります。
	ディスクが汚れていませんか。	ディスクをクリーニングしてください。☛ **61 ページ**
	音声ケーブルが正しく接続されていますか。	ケーブルは奥までしっかり差し込んでください。
	音声ケーブルが断線していませんか。	断線していたときは新しいケーブルと交換してください。
	他機器 (AV アンプなど) と正しく接続されていますか。	• 他機器の音声出力端子などに接続していないか確認してください。 • AV アンプの PHONO 入力端子などに接続していないか確認してください。
	[音声出力モード] が正しく設定されていますか。	[音声出力モード] が [5.1 チャンネル] に設定されているときは音声出力 (2ch) 端子から音声が出ないことがあります。 ☛ **45 ページ**
	スピーカーが正しく設定されていますか。	[スピーカー設定] を正しく設定してください。 ☛ **46 ページ**
		光デジタル音声出力端子、同軸デジタル音声出力端子、または HDMI 出力端子からのみ音声を出力する BD があります。
● デジタル音声出力 (同軸 / 光) 端子からデジタル音声が出力されない（アナログ音声は出力される）。	[音声出力] が接続している AV アンプなどが対応している音声に設定されていますか。	• 接続している AV アンプの取扱説明書をご覧になり、対応している音声を確認してください。 • [音声出力] を正しく設定してください。☛ **44 ページ**
● マルチチャンネル音声が出力されない。	接続している AV アンプなどの音声出力は正しく設定されていますか。	• 接続している AV アンプの取扱説明書をご覧になり、AV アンプの音声出力の設定を確認してください。 • メニュー画面、または **音声ボタン**でディスクの音声をマルチチャンネル音声に切り換えてください。
	[音声出力] が接続している AV アンプなどが対応している音声に設定されていますか。	• 接続している AV アンプの取扱説明書をご覧になり、対応している音声を確認してください。 • [音声出力] を正しく設定してください。☛ **44 ページ**
	[音声出力]、および [スピーカー] が正しく設定されていますか。	• AV アンプなどを音声出力 (5.1ch) 端子に接続しているときは、[音声出力モード] を [5.1 チャンネル] に設定してください。☛ **45 ページ** • [スピーカー設定] を正しく設定してください。 ☛ **46 ページ**
	AV アンプなどを HDMI 出力端子、デジタル音声出力 (光 / 同軸) 端子、に接続していますか。	接続している AV アンプの取扱説明書をご覧になり、AV アンプの音声出力の設定を確認してください。
● DTS 音声を出力すると雑音が聞こえる。	接続している AV アンプは DTS 音声に対応していますか。	デジタル音声出力端子に DTS 音声に対応していない AV アンプを接続しているときは、[DTS 出力] を [DTS → PCM] に設定してください。[DTS 出力] を [DTS] に設定していると雑音が聞こえます。☛ **44 ページ**
● デジタル音声出力 (光 / 同軸) 端子から 192 kHz、または 96 kHz のデジタル音声が出力できない。		本機のデジタル音声出力 (光 / 同軸) 端子からは 192 kHz、または 96 kHz のデジタル音声が出力できません。自動でダウンサンプリングして出力されます。
● ディスクに記録されているファイルが再生できない。	本機で再生できるディスクですか。	本機で再生できるディスクか確認してください。 ☛ **7 ページ**（本機はマルチボーダーに対応していますが、1 つ目のボーダーしか再生できません。）
	本機で再生できるファイルですか。	• 本機で再生できるファイルか確認してください。 ☛ **8 ページ** • ファイルが壊れていないか確認してください。
	ファイルが DRM で保護されていませんか。	DRM で保護されているファイルは再生できません (ディスクナビに表示されたとき、DRM で保護されているファイルには が付いています)。
● BD を再生しても映像が映らない、またはハイビジョンで出力されない。		コピープロテクトで保護されたディスクは、映像出力端子、S ビデオ映像出力端子、およびコンポーネント映像出力端子から映像を出力できないことがあります。HDMI ケーブルで接続してください。☛ **14 ページ**
● ランダム再生中に同じトラック / ファイルが再生される。		無作為に再生しますので、同じトラック / ファイルを再生することがあります。たとえば、「トラック 1 →トラック 5 →トラック 1 ･･･」のような順番で再生されることもあります。これは故障ではありません。

HDMI

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
● HDMI インジケーターが点灯しない。	DVI 機器を接続していませんか。	DVI 機器の取扱説明書をご覧になり、HDCP に対応しているか確認してください。
	接続している HDMI 機器の入力は正しいですか。	HDMI 機器の取扱説明書をご覧になり、正しい入力に切り換えてください。
● 映像が映らない。	DVI 機器を接続していませんか。	DVI 機器を接続すると映像が正しく映らないことがあります。
	HDMI インジケーターは点灯していますか。	• HDMI インジケーターが点灯していないときは、HDMI 機器の取扱説明書をご覧になり、正しい入力に切り換えてください。 • HDMI インジケーターが点灯しているときは、**解像度切換ボタン**で解像度を切り換えてください。☛ **21 ページ**
	HDMI ケーブルが正しく接続されていますか。	• ケーブルは奥までしっかり差し込んでください。 • ケーブルによっては 1080 p 映像信号が正しく出力できないことがあります (付属の HDMI ケーブルは 1080p に対応しています)。
	HDMI ケーブルが断線していませんか。	断線していたときは新しいケーブルと交換してください。
● テレビ画面の色が正しく映らない。		[HDMI カラースペース] の設定を変更してください。☛ **44 ページ**
● 音声が出ない。	DVI 機器を接続していませんか。	DVI 機器に接続しているときは、HDMI 出力端子から音声が出ません。デジタル音声出力 (光 / 同軸) 端子、または音声出力 (2ch) 端子に接続してください。
	出力されている音声を確認してください。	本機は 192 kHz のマルチチャンネル音声を出力できません。再生中に **音声ボタン**を押して音声を切り換えてださい。
● HDMI コントロール機能が働かない。	HDMI ケーブルが正しく接続されていますか。	HDMI ケーブルを正しく接続してください。
	本機の [HDMI コントロール] が [オン] に設定されていますか。	本機の [HDMI コントロール] を [オン] に設定してください。☛ **45 ページ**
	接続している機器の [HDMI コントロール] が [オン] に設定されていますか。	HDMI コントロール機能は、HDMI ケーブルで接続されているすべての機器の [HDMI コントロール] を [オン] に設定しているときに働きます。接続、および各機器の設定が完了したら、本機の映像がプラズマテレビに出力されているか確認してください (接続する機器を変更したり、HDMI ケーブルを差し直したときも確認してください)。詳しくは接続している機器の取扱説明書をご覧ください。
	複数の機器を接続していませんか。	本機を含めて 3 台以上の機器が接続されていると働かないことがあります。
	接続している機器が HDMI コントロール機能に対応していますか。	• 接続しているプラズマテレビによっては働かないことがあります。 • 他社の機器と HDMI ケーブルを使って接続しても HDMI コントロール機能は働きません。 • HDMI コントロール機能に対応している機器と本機の間に HDMI コントロール機能に対応していない機器、または他社の機器が接続されているときは働きません。 • 接続している機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
	お使いの HDMI ケーブルが HDMI1.3 規格に対応していますか。	付属の HDMI ケーブル以外をお使いのときは HDMI1.3(カテゴリー 2) 規格以降に対応しているケーブルをお使いください。 (HDMI1.3(カテゴリー 2) 規格以降に対応していないと HDMI コントロール機能が正しく動作しないことがあります。)

ネットワーク

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
● ホームメディアギャラリーが表示できない (LAN インジケーターが点灯していない)。	正しく接続されていますか。	ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
● ホームメディアギャラリーが表示できない (LAN インジケーターは点灯している)。	IP アドレスは正しく設定されていますか。	• 本機の IP アドレスを自動で設定したときは、接続している機器の IP アドレスも自動で設定してください。 • 接続している機器の IP アドレスを手動で設定したときは、本機の IP アドレスも手動で設定してください。☛ **19 ページ** • DHCP、または IP アドレスの設定を確認してください。自動で IP アドレスを設定したときは、IP アドレスが正しいか確認してください。☛ **19 ページ**
	接続している機器は動作していますか。	• 待機状態やスリープモードなどになっていないか確認してください。 • 接続している機器が動作していることを確認してください。 • 必要に応じて、再起動してください。
	接続している機器のネットワークの設定などは正しく設定されていますか。	正しく設定してください。
	接続している機器がファイルの共用を許可していますか。	接続している機器の設定を変更してください。
	接続している機器のフォルダーが削除、または損傷していませんか。	接続している機器に保存されているフォルダーを確認してください。
● 接続している機器がホームメディアギャラリーに表示されない。	接続している機器は動作していますか。	• 待機状態やスリープモードなどになっていないか確認してください。 • 接続している機器が動作していることを確認してください。 • 必要に応じて、再起動してください。
	接続している機器のネットワークの設定などは正しく設定されていますか。	正しく設定してください。
	接続している機器がファイルの共用を許可していますか。	接続している機器の設定を変更してください。
	接続している機器のフォルダーが削除、または損傷していませんか。	接続している機器に保存されているフォルダーを確認してください。
	接続している機器に再生できるファイルがありますか。	接続している機器に保存されているファイルを確認してください。
	新しい機器をネットワーク上に追加していませんか。	しばらく待ってから再度ホームメディアギャラリーを表示してください。
● 接続している機器にアクセスできない (リストには表示されるが、🔒 が付いている)。	接続している機器の設定は正しいですか。	接続している機器に、本機がデバイスとして認証 (許可) されていないとアクセスできません。接続している機器の設定を確認してください。
	接続している機器に再生できるファイルがありますか。	接続している機器に保存されているファイルを確認してください。
	新しい機器をネットワーク上に追加していませんか。	しばらく待ってから再度ホームメディアギャラリーを表示してください。
● 前回リストに表示されていた機器が表示されない。 ● 前回再生したファイルが見つからない。	接続している機器の電源がオンになっていますか。	接続している機器の電源がオフになっているときは、ネットワーク上の別の機器に接続します。特定の機器のファイルを再生したいときは、機器が起動していることを確認してから、ホームメディアギャラリーで機器を選んでください。

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
● ファイルを再生できない。 ● ファイルが表示されない。	正しく接続されていますか。	ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
	接続している機器が正しく動作していますか。	接続している機器のネットワークの設定などを確認してください。必要に応じて再起動してください。
	本機で再生できるファイルですか。	• 本機で再生できるファイルか確認してください。 **☛ 8 ページ** • フォルダーが壊れていないか確認してください。 • DLNA サーバー上の DRM で保護されているファイルは再生できません (ホームメディアギャラリーに表示されたとき、DRM で保護されていて再生できないファイルには が付いています)。Windows Media Connect (または同じ機能が組み込まれている Windows Media Player 11) がインストールされているパソコン上のファイルは再生できます。 • 本機で再生できる拡張子の付いているファイルでも再生できない、または表示できないことがあります。
	サイズ (データ容量) の大きいファイルではありませんか。	サイズ (データ容量) の大きいファイルは表示されるまでに時間がかかります。表示されるまでしばらくお待ちください。
	ファイル数が多すぎませんか。	ファイル数が多いと再生できない、または表示できないことがあります。
● 映像 / 音声が自動で停止する。 ● 映像 / 音声が乱れる。	正しく接続されていますか。	• ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • 接続しているケーブルの種類を確認してください。
	接続している機器が正しく動作していますか。	接続している機器のネットワークの設定などを確認してください。必要に応じて再起動してください。
	無線 LAN で接続していませんか。	無線 LAN の処理速度 (ビットレート) が十分か確認してください。
	本機で再生できるファイルですか。	• 本機で再生できるファイルか確認してください。 **☛ 8 ページ** • フォルダーが壊れていないか確認してください。 • 本機で再生できる拡張子の付いているファイルでも再生できない、または表示できないことがあります。
● 接続している機器によって、ホームメディアギャラリーの表示が異なる。		接続している機器によって異なることがあります。これは故障ではありません。
● ホームメディアギャラリーに表示されている機器を操作できない。	接続している機器がファイルの共用を許可していますか。	接続している機器の設定を変更してください。
	接続している機器のフォルダーが削除、または損傷していませんか。	接続している機器に保存されているフォルダーを確認してください。
	ファイル数が多すぎませんか。	• ファイル数が多いと操作できないことがあります。 • ファイル数が多いと読み込みに時間がかかることがあります。
● ネットワークダウンロードを開始したときテレビ画面に「サーバーに接続できません」と表示された。	ネットワークケーブルが正しく接続されていますか。	サーバーの接続に失敗したときに表示されます。ネットワークケーブルを正しく接続してから再度操作してください。
● ネットワークダウンロード中本体表示窓に「WRT FAILED」と表示された。		ダウンロードが失敗したときに表示されます。故障している可能性がありますので弊社「カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。 **☛ 78 ページ**

その他

こんなときは	ここを確認してください	対応のしかた
● 電源が自動でオフになる。	• [オートパワーオフ] が [オン] に設定されていませんか。 • [HDMI コントロール] が [オン] に設定されていませんか。	• [オートパワーオフ] が [オン] に設定されているときは、30 分以上何も操作しないと電源が自動でオフになります。☛ **45 ページ** • 接続しているテレビの電源をオフにすると連動して本機の電源がオフになることがあります。テレビと連動して本機の電源をオフにしたくないときは [HDMI コントロール] を [オフ] に設定してください。☛ **45 ページ**
● 電源が自動でオンになる。	[HDMI コントロール] が [オン] に設定されていませんか。	接続しているテレビの電源をオンにすると連動して本機の電源がオンになることがあります。テレビと連動して本機の電源をオンにしたくないときは [HDMI コントロール] を [オフ] に設定してください。☛ **45 ページ**
● 接続しているテレビや AV アンプなどの入力が自動で切り換わる。	[HDMI コントロール] が [オン] に設定されていませんか。	本機が再生を開始したり設定画面 (ディスクナビゲーターなど) を表示すると接続しているテレビや AV アンプの入力が自動で本機に切り換わることがあります。テレビや AV アンプの入力を自動で切り換えたくないときは [HDMI コントロール] を [オフ] に設定してください。☛ **45 ページ**
● リモコンで操作できない。	本体背面部のコントロール入力端子に AV アンプなどを接続していませんか。	コントロール入力端子に接続している機器のリモコンで本機を操作してください。
	本体から離れた場所で操作していませんか。	リモコン受光部との距離が 7 m の範囲で操作してください。
	電池がなくなっていませんか。	電池を交換してください。☛ **6 ページ**
● 設定した内容が消えてしまった。	• 本機の電源がオンのとき強制的に電源コードを抜いていませんか。 • 停電が起きていませんか。	本機の電源がオンのとき強制的に電源コードを抜く、または停電などが起きると、設定した内容が消えてしまうことがあります。電源コードは、必ず本体前面部の ⏻ **STANDBY/ON ボタン**、またはリモコンの ⏻ **電源ボタン**を押して、本体表示窓の「POWER OFF」が消えてから抜いてください。特に他機器の AC アウトレットに電源コードを接続しているときはご注意ください。接続している機器の電源と連動して本機の電源がオフになります。電源コードは、なるべく壁などのコンセントに接続することをお勧めします。
● ディスクをセットしたあと、「読込み中」と表示されたまま再生が始まらない。	ディスクに記録されているファイル数が多すぎませんか。	ファイルが記録されているディスクをセットしたとき、記録されているファイル数によっては読込みに数分から数十分かかることがあります。
● BD と DVD のハイブリッドディスクの DVD 層が再生できない。	[ハイブリットディスク再生層設定] が正しく設定されていますか。	[ハイブリットディスク再生層設定] を [DVD] に設定してください。☛ **45 ページ**
● BD と CD のハイブリットディスクの CD 層が再生できない。	[ハイブリットディスク再生層設定] が正しく設定されていますか。	[ハイブリットディスク再生層設定] を [CD] に設定してください。☛ **45 ページ**
● [ハイブリットディスク再生層設定] を [DVD] に設定しているときに BD と CD のハイブリッドディスクを再生すると BD 層が再生される。	[ハイブリットディスク再生層設定] で設定した再生層がディスクに記録されていますか。	再生するハイブリッドディスクに [ハイブリットディスク再生層設定] で設定した再生層がないときは、BD 層が再生されます。
● [ハイブリットディスク再生層設定] の設定を変更できない (グレー表示されている)。	ディスクテーブルにディスクがセットされていませんか。	ディスクがセットされているときは [ハイブリットディスク再生層設定] の設定は変更できません。ディスクを取り出してから設定を変更してください。
● ファイル名などに「■」が表示される。	ファイル名などに使われている文字は本機で表示できる文字ですか。	本機で正しく表示させるには英数字で名前を付けてください。

言語コード表、国 / 地域コード表

言語コード表

言語名（言語コード）, 入力コード

Japanese (ja), **1001**
English (en), **0514**
French (fr), **0618**
German (de), **0405**
Italian (it), **0920**
Spanish (es), **0519**
Chinese (zh), **2608**
Dutch (nl), **1412**
Portuguese (pt), **1620**
Swedish (sv), **1922**
Russian (ru), **1821**
Korean (ko), **1115**
Greek (el), **0512**
Afar (aa), **0101**
Abkhazian (ab), **0102**
Afrikaans (af), **0106**
Amharic (am), **0113**
Arabic (ar), **0118**
Assamese (as), **0119**
Aymara (ay), **0125**
Azerbaijani (az), **0126**
Bashkir (ba), **0201**
Byelorussian (be), **0205**
Bulgarian (bg), **0207**
Bihari (bh), **0208**
Bislama (bi), **0209**
Bengali (bn), **0214**
Tibetan (bo), **0215**
Breton (br), **0218**
Catalan (ca), **0301**
Corsican (co), **0315**
Czech (cs), **0319**
Welsh (cy), **0325**
Danish (da), **0401**
Bhutani (dz), **0426**
Esperanto (eo), **0515**
Estonian (et), **0520**
Basque (eu), **0521**
Persian (fa), **0601**
Finnish (fi), **0609**
Fiji (fj), **0610**
Faroese (fo), **0615**
Frisian (fy), **0625**
Irish (ga), **0701**
Scots-Gaelic (gd), **0704**
Galician (gl), **0712**
Guarani (gn), **0714**
Gujarati (gu), **0721**
Hausa (ha), **0801**
Hindi (hi), **0809**
Croatian (hr), **0818**
Hungarian (hu), **0821**
Armenian (hy), **0825**
Interlingua (ia), **0901**
Interlingue (ie), **0905**
Inupiak (ik), **0911**
Indonesian (in), **0914**
Icelandic (is), **0919**
Hebrew (iw), **0923**
Yiddish (ji), **1009**
Javanese (jw), **1023**
Georgian (ka), **1101**
Kazakh (kk), **1111**
Greenlandic (kl), **1112**
Cambodian (km), **1113**
Kannada (kn), **1114**
Kashmiri (ks), **1119**
Kurdish (ku), **1121**
Kirghiz (ky), **1125**
Latin (la), **1201**
Lingala (ln), **1214**
Laothian (lo), **1215**
Lithuanian (lt), **1220**
Latvian (lv), **1222**
Malagasy (mg), **1307**
Maori (mi), **1309**
Macedonian (mk), **1311**
Malayalam (ml), **1312**
Mongolian (mn), **1314**
Moldavian (mo), **1315**
Marathi (mr), **1318**
Malay (ms), **1319**
Maltese (mt), **1320**
Burmese (my), **1325**
Nauru (na), **1401**
Nepali (ne), **1405**
Norwegian (no), **1415**
Occitan (oc), **1503**
Oromo (om), **1513**
Oriya (or), **1518**
Panjabi (pa), **1601**
Polish (pl), **1612**
Pashto, Pushto (ps), **1619**
Quechua (qu), **1721**
Rhaeto-Romance (rm), **1813**
Kirundi (rn), **1814**
Romanian (ro), **1815**
Kinyarwanda (rw), **1823**
Sanskrit (sa), **1901**
Sindhi (sd), **1904**
Sangho (sg), **1907**
Serbo-Croatian (sh), **1908**
Sinhalese (si), **1909**
Slovak (sk), **1911**
Slovenian (sl), **1912**
Samoan (sm), **1913**
Shona (sn), **1914**
Somali (so), **1915**
Albanian (sq), **1917**
Serbian (sr), **1918**
Siswati (ss), **1919**
Sesotho (st), **1920**
Sundanese (su), **1921**
Swahili (sw), **1923**
Tamil (ta), **2001**
Telugu (te), **2005**
Tajik (tg), **2007**
Thai (th), **2008**
Tigrinya (ti), **2009**
Turkmen (tk), **2011**
Tagalog (tl), **2012**
Setswana (tn), **2014**
Tonga (to), **2015**
Turkish (tr), **2018**
Tsonga (ts), **2019**
Tatar (tt), **2020**
Twi (tw), **2023**
Ukrainian (uk), **2111**
Urdu (ur), **2118**
Uzbek (uz), **2126**
Vietnamese (vi), **2209**
Volapük (vo), **2215**
Wolof (wo), **2315**
Xhosa (xh), **2408**
Yoruba (yo), **2515**
Zulu (zu), **2621**

国 / 地域コード表

国 / 地域名 , 入力コード , 国 / 地域コード

アメリカ **, 2119, us**
アルゼンチン **, 0118, ar**
イギリス **, 0702, gb**
イタリア **, 0920, it**
インド **, 0914, in**
インドネシア **, 0904, id**
オーストラリア **, 0121, au**
オーストリア **, 0120, at**
オランダ **, 1412, nl**
カナダ **, 0301, ca**
韓国 **, 1118, kr**
シンガポール **, 1907, sg**
スイス **, 0308, ch**
スウェーデン **, 1905, se**
スペイン **, 0519, es**
タイ **, 2008, th**
台湾 **, 2023, tw**
中国 **, 0314, cn**
チリ **, 0312, cl**
デンマーク **, 0411, dk**
ドイツ **, 0405, de**
日本 **, 1016, jp**
ニュージーランド **, 1426, nz**
ノルウェー **, 1415, no**
パキスタン **, 1611, pk**
フィリピン **, 1608, ph**
フィンランド **, 0609, fi**
ブラジル **, 0218, br**
フランス **, 0618, fr**
ベルギー **, 0205, be**
ポルトガル **, 1620, pt**
香港 **, 0811, hk**
マレーシア **, 1325, my**
メキシコ **, 1324, mx**
ロシア **, 1821, ru**

おもな仕様

型番			BDP-LX80
型名			ブルーレイディスクプレーヤー
定格電圧			AC100 V
定格周波数			50 Hz/60 Hz
消費電力			35 W
待機時消費電力			0.5 W
本体質量			6.6 kg
外形寸法 (突起部含む)			420 mm(幅) × 103 mm(高さ) × 353 mm(奥行)
許容動作温度			+5 ℃〜 +35 ℃
許容動作湿度			5 %〜 85 % (結露のないこと)
出力端子	映像出力	映像	1 系統、ピンジャック：1.0 Vp-p(75 Ω)
		S 映像	1 系統、4 ピンミニ DIN： Y(輝度) = 1.0 Vp-p(75 Ω) C(色) = 0.286 Vp-p(75 Ω)
		コンポーネント映像	1 系統、ピンジャック： Y(輝度) = 1.0 Vp-p(75 Ω) CB/PB、CR/PR(色差) = 0.7 Vp-p(75 Ω)
		HDMI	1 系統、19 ピン
	音声出力	2ch(ステレオ)	チャンネル数：2、ピンジャック
		5.1ch(マルチチャンネル：フロント左 / 右、サラウンド左 / 右、センター、サブウーファー)	チャンネル数：6、ピンジャック
		音声出力レベル	200 mVrms（1 kHz、-20 dB）
		周波数特性	4 Hz 〜 22 kHz
		S/N 比	115 dB
		ダイナミックレンジ	108 dB
		全高調波歪率	0.0015 %
		ワウ・フラッター	測定限界以下 (± 0.001 % W.PEAK)(JAITA)
	デジタル音声出力	光	1 系統、角型光ジャック
		同軸	1 系統、ピンジャック
IR		入力	1 系統、ミニジャック
コントロール		入力	1 系統、ミニジャック
LAN(100)			1 系統、100BASE-TX

お知らせ

- 本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- 本機では、画面表示に NEC のフォント「FontAvenue」を使用しています。FontAvenue は NEC の登録商標です。

使用上のご注意

本機を移動する場合のご注意

本機を移動する場合は、必ずディスクを取り出しディスクテーブルを閉じてください。さらに本体の ⏻ **STANDBY/ON ボタン**（またはリモコンの ⏻ **電源ボタン**）を押し、表示窓の「POWER OFF」表示が消えてから電源コードを抜いてください。ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。

設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

次のような場所は避けてください

- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。

通気孔をふさがない。

毛足の長い敷物やベッド、ソファーの上などで使用したり、本機を布などでくるんで使用しないでください。放熱を妨げ、故障の原因となります。

熱を受けないように

本機をアンプなど、熱を発生する機器の上にのせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱を避けるため、アンプよりできるだけ下の棚に入れてください。

本機を使わないときは電源を切る

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

結露について

冬期などに本機を寒いところから暖かい室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部やレンズ）に水滴が付きます（結露）。結露したままでは本機は正常に動作せず、再生ができません。結露の状態にもよりますが、本機の電源を入れて 1 ～ 2 時間放置し、本機の温度を室温に保てば水滴が消え、再生できるようになります。
夏でもエアコンなどの風が、本機に直接あたると結露が起こることがあります。その場合は本機の設置場所を変えてください。

製品のお手入れについて

- 本体は通常、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で 5 ～ 6 倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- 化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

ガラスドア付きラックに入れたときのご注意

ガラスドアを閉めたまま、リモコンの ▲ **開 / 閉ボタン**を押して、ディスクテーブルを開けないでください。ディスクテーブルの動きが妨げられると、故障の原因になります。

レンズのクリーニングについて

レンズにゴミやホコリがたまると、音飛びしたり画像が乱れたりすることがあります。このような場合は、「保証とアフターサービス」☛ **65 ページ**をお読みのうえ、清掃をご依頼ください。市販されているクリーニングディスクを使用するとレンズを破損する恐れがありますので、ご使用にならないでください。

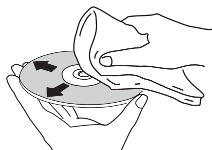
ディスクの取り扱いについて

保管

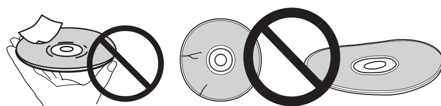
- 必ずケースに入れ、高温多湿の場所や直射日光の当たる場所、極端に温度の低い場所を避けて垂直に保管してください。
- ディスクに付いている注意書は必ずお読みください。

ディスクのお手入れ

- ディスクに指紋やホコリが付いたときは、再生ができなくなることがあります。このようなときは、クリーニングクロスなどで内周から外周方向へ軽く拭いてください。そのとき、汚れたクリーニングクロスは使用しないでください。



- ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品は使用しないでください。また、レコードスプレー・帯電防止剤などは使用できません。
- 汚れがひどいときは、柔らかい布を水に浸してよく絞ってから汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で水気を拭き取ってください。
- 損傷のあるディスク (ひびやそりのあるディスク) は使用しないでください。
- ディスクの信号面に傷や汚れをつけないでください。
- ディスクを 2 枚重ねて再生しないでください。
- ディスクに紙やシールなどを貼り付けないでください。ディスクにそりが発生し、再生できなくなる恐れがあります。また、レンタルディスクはラベルが貼ってある場合が多く、のりなどがはみ出している恐れがありますので、のりなどのはみ出しがないことを確認してからご使用ください。



特殊な形のディスクについて

本機では、特殊な形のディスク (ハート型や六角形等) は再生できません。故障の原因になりますので、そのようなディスクはご使用にならないでください。



ディスクの結露について

冬期などにディスクを寒いところから暖かい室内に持ち込んだとき、ディスクの表面に水滴が付くことがあります (結露)。ディスクが結露していると正常に再生できないことがありますので、ディスクの表面の水滴をよく拭き取ってから使用してください。

用語の解説

■ アスペクト比
テレビ画面の横と縦の比率です。従来サイズのテレビの比率は4：3です。ハイビジョンテレビ、またはワイドテレビの比率は16：9です。臨場感あふれる映像が楽しめます。

■ イーサネット (Ethernet)
同じ場所にある複数のパソコンなどを接続してローカルエリアネットワーク (LAN) を構築するときに使われる規格です。現在は、100BASE-TX と呼ばれる方式が最も普及しています (10BASE-T と呼ばれる方式もあります)。通常は LAN ケーブルとハブを使って複数のパソコンを接続します。

■ インタラクティブオーディオ
BD-ROM のタイトルに収録されている音声です。たとえば、メニュー画面を操作しているときのクリック音などのことです。

■ インターレーススキャン (飛び越し走査)
映像の 1 画面を半分ずつ 2 回に分けて描きます。最初に奇数番目の走査線を描き、次に偶数番目の走査線を描いて 1 画面 (フレーム) を表示します。従来のテレビの走査方式として採用されています。本機の取扱説明書では解像度の数字の後ろに「i」を付けて (480i など) 表記してあります。

■ 映像出力 (コンポジット)
輝度信号 (Y) と色信号 (C) を混合して 1 本のコードで伝送できるようにした信号を出力する端子です。

■ コンポーネント映像出力
Y、PB、PR の 3 つの信号からなり、コンポーネント入力付きのテレビと接続することにより、よりきれいな映像が得られる映像出力です。

■ サブネットマスク
IP アドレスの何ビット分をネットワークグループの識別のために使うかを定義する 32 ビットの数値です。「255.255.255.0」のように表示されます。

■ 視聴制限
暴力シーンなどを含む DVD ビデオの中には、視聴制限のレベル（大小）が設けられたものがあります。ディスクのレベルよりも小さいレベルに本機の視聴制限レベルを設定すると、暗証番号を入力しない限り再生ができなくなります。

■ ダイナミックレンジ
ダイナミックレンジとは、ディスクに記録されている音声レベルの最大値と最小値の差異のことです。ダイナミックレンジは、デシベル (dB) 単位で測定されます。
ダイナミックレンジを圧縮する (オーディオ DRC) と、最小の信号レベルが上がり、最大の信号レベルが下がります。これにより、破裂音のような強い音声信号が低減される一方、人の声などの低いレベルの音声信号がはっきりと聞こえるようになります。

■ デフォルトゲートウェイ
ネットワーク外 (インターネットなど) の機器にアクセスするとき「出入り口」になるルータなどの機器です。

■ ドルビーデジタル Plus
ドルビーデジタル Plus は、高精細映像放送番組やパッケージメディア向けに開発された次世代音声技術です。ブルーレイディスクのオプション音声として採用されたこの技術は、将来の放送の要求を満たす高い効率性と、きたるべき高精細映像時代に求められる音声の可能性を実現するための機能と柔軟性を結合させたものです。
音声出力については、ディスクリートチャンネル出力によるマルチチャンネルサウンド出力を行い、従来を越える音質で最大 7.1 チャンネル * 出力します。また、従来のドルビーデジタルデコーダーでは通常のドルビーデジタル信号として出力するため、完全互換性を持っています（この際、処理遅延や音質劣化はありません)。
最大6 Mbpsのビットレート性能で、ブルーレイディスクでは 1.7 Mbps が最大規格となります。
ケーブル 1 本で高精細映像・音声のデジタル接続を可能にする HDMI(バージョン 1.3) でサポートされています。

* ドルビーデジタル Plus は、8 チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在ブルーレイディスクでは、最大音声チャンネル数が 8 チャンネルに制限されています。

■ ドルビー TrueHD
ドルビー TrueHD は、次世代高精細光ディスク向けに開発されたロスレス符号化技術です。ブルーレイディスクのオプション音声として採用されたこの技術は、1 ビット精度で復元可能な記録･再生を実現し、次世代高精細光ディスクの要である高精細画像を完全なものにします。高精細映像と組み合わせることで、ドルビー TrueHD は高精細映像と最高品位のサウンドで、かつてないホームシアター体験を実現します。
最大 18 Mbps のビットレートで、24 bit/96 kHz、最大 8 チャンネル * の独立チャンネルを記録することが可能です。また、ドルビー TrueHD はダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールに対応しています。ダイアログノーマライゼーションは、再生中に他のドルビーデジタル、ドルビー TrueHD プログラムに移行する際も同一のボリュームレベルを維持することが可能で、ダイナミックレンジコントロールでは音量を下げても収録された音源の細部まで聞きとることが可能な (音源の細部を聞くために大音量にする必要がない）音声再生のカスタマイズです。
ケーブル 1 本で高精細映像・音声のデジタル接続を可能にする HDMI(バージョン 1.3) でサポートされています。

* ドルビー TrueHD は、8 チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在ブルーレイディスクの規格では、最大音声チャンネル数が 8 チャンネルに制限されています。

■ 光デジタル出力
音声は通常、電気信号に変えて電線でプレーヤーからアンプなどの他の機器に伝達しますが、これをデジタル信号に変えて、光ファイバーで伝達できるようにしたものが光デジタル出力です (アンプなど、受け取り側は光デジタル入力になります)。

■ プログレッシブスキャン (順次走査)

映像の 1 画面を 2 回に分けずに 1 画面ずつ描きます。特に静止画の文字やグラフィックス、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた美しい画像がご覧になれます。本機の取扱説明書では、解像度の数字の後ろに「p」を付けて (480p など) 表記してあります。

■ マルチアングル

BD-ROM/DVD ビデオには、同時に複数のカメラで撮影した映像が記録されているものがあります。BD-ROM/DVD ビデオではアングルを最大 9 つまで記録することができます。

■ マルチ音声言語

一枚に複数の音声を持っている BD-ROM/DVD ビデオがあります。BD-ROM は最大 32 言語（32 ストリーム)、DVD ビデオは最大 8 言語 (8 ストリーム) まで記録できます。記録されている言語からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

■ マルチ字幕 (サブタイトル) 言語

映画などでおなじみの字幕の言語です。BD-ROM は最大 255 カ国語、DVD ビデオは最大 32 カ国語まで記録できます。記録されている言語からお好きな言語を選んで楽しめる機能です。

■ リージョンナンバー (地域番号)

ブルーレイディスクプレーヤーと BD/DVD には、発売地域ごとにリージョンナンバーが設けられています。再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョンナンバーは下記のとおりです (本体背面部に表記されています)。
BD：A(A を含む)、ALL
DVD：2(2 を含む)、ALL

■ BD-J

BD-ROM では、Java アプリケーションを利用することにより、ゲームなどを含むよりインタラクティブ性の高いタイトルを制作することができます。



■ BDAV

書き込み式のブルーレイディスク (BD-R、または BD-RE など) で利用されているアプリケーションフォーマットの一種です。DVD 規格の VR モードに相当します。

■ BDMV

ブルーレイディスク規格の一つ (BD-ROM 用のアプリケーション規格) です。DVD 規格のビデオモードに相当します。

■ DHCP

Dynamic Host Configuration Protocolの略です。ネットワークに関する設定 (IP アドレスの取得など) を自動で行う機能です。

■ DLNA

Digital Living Network Allaiance(デジタル・リビング・ネットワーク・アライアンス) の略です。ローカルエリアネットワーク (LAN) 上で接続したメーカーの異なるパソコンやデジタル家電の動画、音楽、または画像データなどを相互で視聴できるようにするためのデータの圧縮方式や転送方式の標準化を進めている団体の名称です。本機は DLNA Home Networked Device Interoperability Guidelines v1.0 に準じています。

■ DRM

デジタルデータの著作権を保護する技術です。デジタル化された動画、音楽、または画像などの品質は、複製や送受信の繰り返しによって劣化しません。このようなデジタルデータを著作者の許諾なしで流通や再生することを制限するための技術です。

■ HDCP(High-bandwidth Digital Content Protection)

デジタル画像信号を暗号化する著作権保護技術の一つです。

■ HDMI(High-Definition Multimedia Interface)

パソコンのディスプレイなどで使用されている DVI(Digital Video Interface) 端子を拡張した、次世代テレビ向けのデジタルインターフェイス規格です。圧縮されていないデジタル映像、および音声 (ドルビー TrueHD、ドルビーデジタル Plus、ドルビーデジタル、DTS、MPEG、またはリニア PCM) を 1 つのコネクターで伝送できます。

■ IP アドレス

インターネットなどの IP(インターネットプロトコル) ネットワークに接続されたパソコンに割り振られた識別番号です。通常は「192.168.130.106」のように、0 から 255 までの数字を 4 つ並べて表示します。

■ LAN

Local Area Network の略です。同じ建物の中にあるパソコンやプリンターなどを専用ケーブルで接続してデータを送受信するネットワークです。最も普及している規格はイーサネット (Ethernet) 規格で、通信速度が 10Mbps、最大伝送距離が 100 m の 10BASE-T やその 10 倍の通信速度を実現できる 100BASE-TX が主流です。

■ MAC アドレス

イーサネットカードに付与される固有の ID 番号です。これを元にカード間でデータが送受信されます。IEEE(Institute of Electrical and Electronic Engineers =電気電子学会) が割り当てる番号と各メーカーが独自に割り当てる番号の組み合わせによって表示されます。

■ MPEG(Moving Picture Experts Group)

エムペグと読みます。これは動画音声圧縮方法の国際標準です。BD/DVD の映像は、この方式で記録されています。BD/DVD の中には、この方式でデジタル音声を圧縮して記録しているものもあります。

■ S 映像出力

輝度信号 (Y) と色信号 (C) を分離して 1 本のコードで伝送できるようにした信号を出力する端子です。映像出力 (コンポジット) よりもきれいな映像が得られます。
S1 とは、映像のアスペクト比 (4:3、16:9) の識別信号の入った S 映像信号です。S2 とは、S1 に加えて 4:3 レターボックスも識別できるようにした S 映像信号です。S1/S2 対応のワイドテレビでは、適切な映像モードに自動で切り換わります。

■ Windows Media DRM

Windows Media デジタル著作権管理 (DRM) は、パソコン、デジタルオーディオプレーヤー、またはネットワーク機器などで再生するファイルを保護して、安全に配信できる技術です。WMDRM で保護されているファイルは WMDRM に対応している機器でのみ再生できます。

■ Windows Media Player 11/ Windows Media Connect

Windows Media Connect はパソコンに保存されている動画、音楽、画像ファイルをネットワーク上で共有するソフトウェアです。また、Windows Media Player 11 には同じ機能が組み込まれています。
現在、Windows Media Connect はマイクロソフト社のウェブサイトでダウンロードできませんので、Windows Media Connect がお使いの機器にインストールされていないときは、マイクロソフトのウェブサイトからダウンロードできる Windows Media Player11 for Windows XP をインストールしてください。詳しくは、マイクロソフトのウェブサイトをご覧ください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は必ず「お買い上げ店名・お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保存してください。

保証期間は購入日から 1 年間です。

ご注意

- 「使用上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくご使用になることをお勧めいたします。☛ **60 ページ**

補修用性能部品の保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご依頼ください。また、転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理についてのご相談窓口にご相談ください。☛ **78 ページ**

修理を依頼されるとき

52 ～ 57 ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所：「付近の目印もあわせてお知らせください」
- お名前
- お電話番号
- 製品名：ブルーレイディスクプレーヤー
- 型番：BDP-LX80
- お買い求め日
- 故障または異常の内容：「できるだけ具体的に」「ディスクのタイトルなど」
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

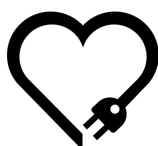
保証期間中は

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。

保証期間が過ぎているときは

保証期間経過後の修理については販売店にご相談ください。
メーカーは販売店からの注文により補修用性能部品を販売店に供給します。
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

愛情点検



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。
こんな症状はありませんか？

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電源が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、臭いがする。

▼

故障や事故防止のため、すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、「保証とアフターサービス」（上記）をお読みのうえ、修理受付センター（☛ 78 ページ）に点検をご依頼ください。

ライセンス

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾 (ライセンス) について記載しています。正確な内容を保持するため、原文 (英語) を記載しています。

MPEG4IP

This software is based in part on Mozilla Public License 1.1 see http://www.mozilla.org/MPL/ for information.

OpenSSL

OpenSSL License

Copyright © 1998-2004 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)".
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)".

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
   The word `cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related:-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

tiff

Copyright © 1988-1997 Sam Leffler
Copyright © 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Howl

Copyright © 2003, 2004 Porchdog Software All rights reserved.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
This software is based in part on Apple Public Source License or the recent's rights thereunder see http://developer.apple.com/ for information.

UPNPLib/Intel Stack

This software is based in part on Intel License see http://www.intel.com/ for information.

JPEG image compression

If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".

libpng

COPYRIGHT NOTICE, DISCLAIMER, and LICENSE:
If you modify libpng you may insert additional notices immediately following this sentence. libpng version 1.2.6, December 3, 2004, is Copyright © 2004 Glenn Randers-Pehrson, and is distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.2.5 with the following individual added to the list of Contributing Authors

Cosmin Truta

libpng versions 1.0.7, July 1, 2000, through 1.2.5 - October 3, 2002, are Copyright © 2000-2002 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-1.0.6 with the following individuals added to the list of Contributing Authors

Simon-Pierre Cadieux
Eric S. Raymond
Gilles Vollant

and with the following additions to the disclaimer:
There is no warranty against interference with your enjoyment of the library or against infringement. There is no warranty that our efforts or the library will fulfill any of your particular purposes or needs. This library is provided with all faults, and the entire risk of satisfactory quality, performance, accuracy, and effort is with the user.
libpng versions 0.97, January 1998, through 1.0.6, March 20, 2000, are Copyright © 1998, 1999 Glenn Randers-Pehrson, and are distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.96, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

Tom Lane
Glenn Randers-Pehrson
Willem van Schaik

libpng versions 0.89, June 1996, through 0.96, May 1997, are Copyright © 1996, 1997 Andreas Dilger Distributed according to the same disclaimer and license as libpng-0.88, with the following individuals added to the list of Contributing Authors:

John Bowler
Kevin Bracey
Sam Bushell
Magnus Holmgren
Greg Roelofs
Tom Tanner

libpng versions 0.5, May 1995, through 0.88, January 1996, are Copyright © 1995, 1996 Guy Eric Schalnat, Group 42, Inc.
For the purposes of this copyright and license, "Contributing Authors" is defined as the following set of individuals:

Andreas Dilger
Dave Martindale
Guy Eric Schalnat
Paul Schmidt
Tim Wegner

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.
Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:
1. The origin of this source code must not be misrepresented.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.
A "png_get_copyright" function is available, for convenient use in "about" boxes and the like: printf("%s",png_get_copyright(NULL)); Also, the PNG logo (in PNG format, of course) is supplied in the files "pngbar.png" and "pngbar.jpg (88x31)" and "pngnow.png" (98x31).
Libpng is OSI Certified Open Source Software. OSI Certified Open Source is a certification mark of the Open Source Initiative.
Glenn Randers-Pehrson
glennrp at users.sourceforge.net
December 3, 2004

zlib

This software is based in part on zlib see http://www.zlib.net for information.

FreeType

The FreeType Project is Copyright © 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg. All rights reserved except as specified below.
THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

GIFLIB

The GIFLIB distribution is Copyright © 1997 Eric S. Raymond
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

libhttp

Copyright © 2000-2004 Dag-Erling Smorgrav
All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in this position and unchanged.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
The following copyright applies to the base64 code:
Copyright 1997 Massachusetts Institute of Technology
Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that both the above copyright notice and this permission notice appear in all copies, that both the above copyright notice and this permission notice appear in all supporting documentation, and that the name of M.I.T. not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission. M.I.T. makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY M.I.T. "AS IS". M.I.T. DISCLAIMS ALL EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT SHALL M.I.T. BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Vera.ttf/VeraMono.ttf

TinyLogin

Shadow Utilities

Bigelow & Holmes Inc and URW++ GmbH Luxi font license

Luxi fonts

THE FONT SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF COPYRIGHT, PATENT, TRADEMARK, OR OTHER RIGHT. IN NO EVENT SHALL BIGELOW & HOLMES INC. OR URW++GMBH. BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, INCLUDING ANY GEN-ERAL, SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE FONT SOFTWARE OR FROM OTHER DEALINGS IN THE FONT SOFT-WARE.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software - to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.
When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.
To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.
For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.
We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.
Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.
Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.
The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".
   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.
1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.
2. You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
   You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
   a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:
   a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
   b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
   c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

   The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

   If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.
4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.
6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein.

   You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.
7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

   If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

   It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

   This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.
8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.
   Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.
10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.
    END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright © year name of author

Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items - whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software - to make sure the software is free for all its users. This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages - typically libraries - of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights. We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

   A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

   The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

   "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.
   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
   a) The modified work must itself be a software library.
   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful. (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)
   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.
   Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.
   In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.
3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.
   Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy. This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.
4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.
   If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.
5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.
6. However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.
   When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.
7. If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)
   Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.
8. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.
   You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:
   a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.
For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.
It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

9. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:
a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

10.You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

11.You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

12.Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

13.If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.
It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.
This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

14.If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

15.The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.
Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

16.If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

17.BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

18.IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

Linux Source Notice

本製品で使用しているソフトウェアプログラムには、Linux オペレーティングシステムが含まれています。Linux は、GNU General Public License の条件にもとづいて利用が許諾されたソフトウェアを含んでいます。該当するソースコードの複製物は配布に必要な費用をご負担いただくことでご入手いただけます。

複製物を入手するためには、弊社カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

また、GNU General Public License の詳細については GNU のウェブサイトをご覧ください (http://www.gnu.org)。

サービス拠点のご案内

サービス拠点への電話は、修理受付センターでお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービスステーション）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆札幌サービスセンター	FAX　011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX　0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX　0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX　0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆仙台サービスセンター	FAX　022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX　023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX　024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX　019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX　017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX　0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX　018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目346-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

世田谷サービスステーション	FAX　03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
北東京サービスステーション	FAX　03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX　042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1 F

●関東・甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆千葉サービスセンター	FAX　043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町1369-1　椎の実ハイツ1F
松戸サービス認定店	FAX　047-340-5052	〒270-0021	松戸市小金原4-9-23
水戸サービス認定店	FAX　029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX　0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆埼玉サービスセンター	FAX　048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX　049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX　028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-1
群馬サービス認定店	FAX　0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX　025-374-5756	〒950-0982	新潟市堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX　0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆神奈川サービスセンター	FAX　045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜北サービス認定店	FAX　045-943-3155	〒224-0036	横浜市都筑区勝田南1-19-17
神奈川西サービス認定店	FAX　046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX　04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX　0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX　026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX　055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆名古屋サービスセンター	FAX　052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX　0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX　059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX　058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービス認定店	FAX　054-237-5691	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-6-5
沼津サービス認定店	FAX　055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX　053-422-1401	〒435-0042	浜松市篠ヶ瀬町415　ビラモデルナ5号
金沢サービス認定店	FAX　076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX　076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX　0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月~金　9:30~18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30~12:00、13:00~18:00（弊社休業日は除く）

☆大阪サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
大阪南サービス認定店	FAX	0722-75-2625	〒593-8322	堺市西区津久野町1-8-15　ローズマンション1F
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土4-2
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービス認定店	FAX	075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区

受付　月~金　9:30~18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30~12:00、13:00~18:00（弊社休業日は除く）

☆広島サービスセンター	FAX	082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　(有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-29-1290	〒680-0061	鳥取市立川町5-240-1
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービスステーション	FAX	087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX	089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月~金　9:30~18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30~12:00、13:00~18:00（弊社休業日は除く）

☆福岡サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX	097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
鹿児島サービス認定店	FAX	099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

●沖縄県

受付　月~金　9:30~18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

沖縄サービスステーション	TEL	098-879-1910	〒901-2113	浦添市大平2-2-6 ひろえハイツ102
	FAX	098-879-1352		

平成19年5月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■0070－800－8181－22　■一般電話　03－5496－2986

■ファックス　03－3490－5718

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81028（ゴーハ゜イオニア）　■一般電話　03－5496－2023

■ファックス　0120－5－81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098－879－1910

■ファックス　098－879－1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81095　■一般電話　0538－43－1161

■ファックス　0120－5－81096

平成19年5月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.023







インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。左記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお左記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

パイオニア株式会社
〠 153-8654 東京都目黒区目黒１丁目４番１号

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

<07I000001>　<VRA1278-A>